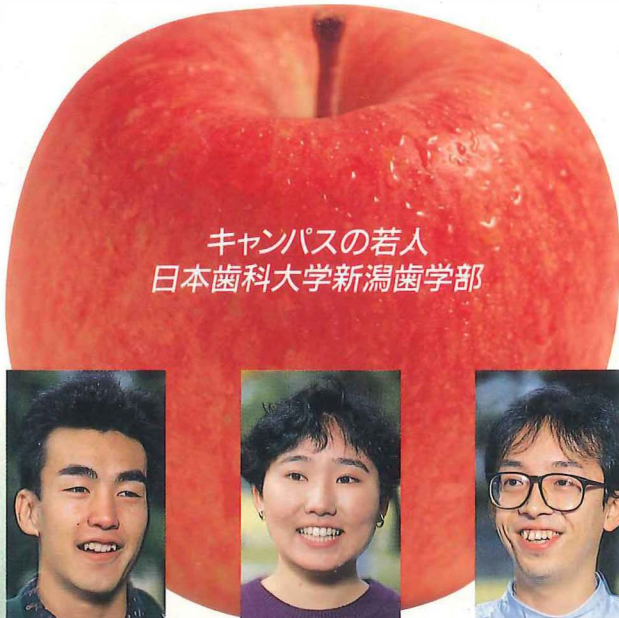


ZOOM UP



1990. No. 69



歯界展望

日本歯科大学の第2の歯学部として、昭和47年に開校された新潟歯学部は、駅から車でおよそ20分。日本海にほど近い静かな住宅街の中に建っていた。中庭を囲むようにして建つ学舎は、ガラスをふんだんに取り入れた濃茶色で、アカデミックな雰囲気をただよわしているが、暗さは全く感じない。

生徒数は現在およそ700名、ご登場頂きました中原歯学部長は、ご存知のように戦後日本の歯科医療界を強烈な個性と政治力で、こん日の当界の基礎を築き上げた、中原実・元日本歯科医師会々長のご次男である。



日本歯科大学 新潟歯学部長

中原 泉

なお実氏は今年96才を迎えられ、これ又わが国シュール・レアリズム絵画の草分け、重鎮として忘れることが出来ない画壇人であるが、現在はその方面でご活動、ご健在とのこと。歯科医療関係者として、共にご長命をお祈り申し上げたい。

お会いした歯学部長、今年48才と言われるが、礼儀正しく、言葉使いも一言一言丁寧に話され、驕ったところが全く感じられない。おそらく生徒さん達には、誠実で真面目な、チョッと歳の離れたお兄さん、といった印象で親しまれていることであろう。

「いやー、私は確かに親の七光りと言われても仕方ないし、間違いなくそれはあります。

しかし与えられた環境の中で年相応に生きて来たつもりですし、人間、それが大切なのではないでしょうか」とキッパリ。こうした言葉は、中途半端な育ちの人間には決して出て来ない。やはり驕驥の血は確実に受け継がれている、との思いだ。

新潟歯学部の特色は？「まず第一は、附属に医科病院をもっていることですね。現在消化器系の内科・外科、耳鼻咽喉科、麻酔科の4科で50床を備えております。学生は臨床実習カリキュラムの一環として、一般医科の講義に加えて、メディカルオペの実地研修や病棟の回診などを行います。こうした体験は将来歯科医にとって必ずプラスになると思います。

次は、高齢化社会に向かって増加しつつある寝たきり老人や、何らかの身体的理由で通院出来ない患者さんに、市から車を提供してもらって、在宅歯科往診を週2～3日、歯科医、衛生士と共に回っております。医療の原点を知る、といった意味で良い経験になると思います。第3は、昭和55年にわが国で初めて開設された障害児歯科センターです。うがいもできない障害児に歯みがきの習慣をつけさせるなど、効果をあげております。第4には、国際化時代に向かって海外姉妹校が現在、イギリス、カナダ、アメリカ、その他に9校ほどありますので、夏休みなどを

使って交換留学生制度を設けております。」

限られた年月内で、将来の歯科医療を担う教育の質をいかに高めていくか、その要望総てを満すわけには、現在の教育制度下では難しいが、学部長のおっしゃるように、こうした数々の特色は、以前とは違った形で歯科医療人を育てていくことであろう。

中学・高校時代は文学を志し、同人雑誌に所属し、その才能は故川端康成氏にも認められ芥川賞に推薦されたこともあるという。こうした心が、正面玄関右奥にある「医の博物館」への設立にも無縁とは思われない。各種マスコミでも紹介されているが、杉田玄白の「解体新書」やダーウィンの「種の起原」といった原書も収められているという。「え、12年前に開設しましたが、寄贈された貴重な資料が、年々増え続け、千数百点にもなりましたので、この際一般の方々にも公開し、医

について理解を深めてもらおうと、思い切って作りました。学生には2年次最初の歯科医学史で教えておりますが、一般の方々も毎日数人ですが閲覧に来られ、私達の目的を達成しつつあります。」治療のテクニックを熱心に学ぶことは、歯科医として当然であるが、自身の職業の歴史的背景を知識として身につけることは、ともすれば後回しになり、異業種各界との集まりなどで恥をかく場合も少なくない。ぜひ一度、読者の皆さんにも閲覧をお勧めしたいほど、素晴らしい展示品が揃っている。

——歯科大学学生20%の削減については「現在一律に20%削減が行われつつあり、確かに私立大学は厳しい経営をせまられるでしょうが、痛みはどの大学でも同じこと。自分達の苦しさのみを言っていたら、現状の打開はありません。開業医までも含めた、歯科医療界全体で痛みを分かち合う努力をして行かなければならない、と考えております。現在の状況は、海にたとえれば高波の泡立つ状況下にありますが、天候によって、必ず又穏やかな日々も訪れます。」と現在を見据えたお話。頼もしい限りである。

その時代の世情や環境、又生活様式によって色々なものが変化していく。医療といえども決して例外ではない。次代を冷静に見つめた舵取りをぜひお願いしたい。今後の歯科界を担う若き歯学部長である。

●略歴

- 昭和16年2月 東京・千代田区に生まれる
- 昭和40年3月 日本歯科大学卒業
- 昭和40年6月 日本歯科大学助手、歯科医学概論及び歯科医学史担当（昭和44年3月まで）
- 昭和40年12月 日本大学助手（非常勤）医学部法医学教室（昭和50年5月まで）
- 昭和49年4月 日本歯科大学教授、新潟歯学部歯科医学概論及び歯科医学史担当（現在に至る）
- 昭和49年7月 学校法人日本歯科大学評議員（現在に至る）
- 昭和50年5月 医学博士の学位授与（日本大学）
- 昭和52年4月 日本歯科大学新潟歯学部歯科医学史教室室長併任（平成元年7月まで）
- 昭和54年4月 日本歯科大学新潟歯学部長併任（現在に至る）
- 昭和58年4月 日本歯科大学附属新潟専門学校校長併任（昭和63年3月まで）
- 昭和60年12月 学校法人日本歯科大学理事（現在に至る）
- 昭和62年4月 日本歯科大学新潟短期大学学長併任（現在に至る）
- 平成元年7月 日本歯科大学新潟歯学部 医の博物館館長併任（現在に至る）

歯科医師会〈活躍だより〉

社団法人 北海道歯科医師会

会長／庄内宗夫
 副会長／船本達世
 副会長／宮武忠史
 専務理事／石 典芳
 常務理事／永山一行
 常務理事／東 敏彦
 常務理事／朝田英哉
 常務理事／塚本和夫
 常務理事／藤森敏昭
 常務理事／安井 覚
 常務理事／佐藤泰彦
 常務理事／神 隆
 理事／武田 弘
 理事／三嶋 顕
 理事／加々見盛幸
 理事／唐橋 宥
 理事／黒田秀雄
 理事／池田雅彦
 理事／市川 徹
 常務監事／吉村 己
 監事／山口三郎
 監事／藤田 豊



札幌の街を東西につらぬく巾105m、長さ1.5kmの大通公園。2月の雪まつり、5月にはライラックまつりなど、札幌の大パージェントの舞台となる市民のための逍遙地である。その通りに面した西七丁目角に建つ北海道歯科医師会館。月1回の定例理事会とて、夕方ご訪問したが、館内で働かれている方達の挨拶、言葉使いは、こちらが戸惑うほど礼儀正しい。会長以下理事の方々の躰か、事務局長のご指導か、それとも広い大地を有する北海道人特有の大きな性格からか。とにかく爽やかな印象が素直に気持ちよく伝わってくる。

しかし、お会いした庄内会長。今期14年目を迎え、永年日本の歯科医療界の現状と方向を見据えて来られた方だけに、口調は柔らかくであるが、現在の歯科医療のあり方、言動の矛盾を指摘するお話は鋭く、時には一刀両断の如く切捨てる。



会長／庄内宗夫

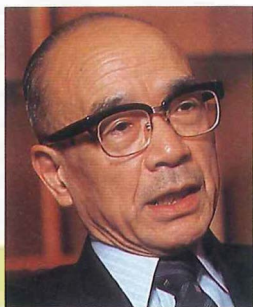
庄内：現在の歯科医療界の在り方を冷静に見てみれば解ると思いますが、一般国民がこの歯科界を魅力ある良心的な業界だと思っていますか？ はっきり云って、そうでないと思っている筈です。自由診療だからと云って、意にそわない治療は断わるなど論外であり、医の倫理など忘れ、個人の利益や権利のみを声高に叫んでいる歯科医療界の現状。そうした業界に、国民が支援すると思いませんか？ 医者は時間が過ぎたからといって、患者を断りますか？ 夜中であろうと、何時であろうと、苦しんでいる患者のためなら…それが医の倫理、使命というものではないですか？ どうも私は現在の歯科医療界は、医の原点をとり間違えているような気がしてなりません。医療中の不採算とは何ですか？ ある会合で、私は安い金額の治療はやりたくない。治療の質の向上のため高レベルの仕事をやりたいからとの話しを聞きました。私は、それなら保険医をやめ、高い金額の治療のみを行いますと看板を上げなさい、と云ったんです。金額の多寡のみで治療内容を変え、それを平気で広言する。我々は商人ではない。高く取ったことを自慢するなど、もつての外です。医療とは自分のためにするものではなく、国民のためにやるものです。そうした一連の歯科医の言動を国民は見ぬいていますよ。口に出しては云わないけれど、心の中では我々歯科医をそう思っています。それで国民の信頼、支援を受けられますか？ 歯科医療を尊い職業だと思いませんか？ 歯科医師が国民のためを思って精一杯努力し、患者のために頑張ってくれているな、と思われた後、我々の立場を訴えることが筋だ、と思うのです。

現状を正視し、今後歯科医療界を背負って立つ、若い方々の20~30年後の将来を考えた方針、生き方を、いま我々は真



剣に取り組まなければならない、そう思っております。

現在盛んに云々されている歯科医師過剰問題も、私は大学の定員を減らす必要はない、と考えます。近くに開院されれば患者が減り、生活が脅かされる。実力がなければ当たり前ですし、第一国民にとっては逆に喜ばしいことです。競争が激しければ激しいほど、優秀な人材、歯科医が育ちます。経済界においても、例えばユニットひとつをとっても、以前では考えられないほど進歩しているでしょう。医術も例外ではありません。魅力的な歯科界であれば、優秀な人が入り、そのことが歯科を進歩・高度化させ、新しい需要を喚気させます。その為の努力を、私達歯科医師会のリーダーはもとより、歯科医師個人個人が自覚しなければいけない時だと思っております。



副会長／船本達世

編集：わかりました。しかし、一歯科医師個人の身になれば、そうしたことがわかっていても、自身の今後、更に老後の安定ということを考えると、多少の貯えを今、元気な中にと考えるのもまた、当然なのではないでしょうか？

庄内：それは当たり前です。そこで私達は、道内だけでもそうした問題を解決させようと、会員の老後の生活安定に取組み、現在8年目に入りました。20~30年後に開花する思い切った制度ですが、開業医定年制を採り入れました。死ぬまで歯科医を好きでやりたい方は、それでもいいのですが、生活のために働くのでは哀れです。高齢化社会における歯科医療云々と騒いでいますが、我々歯科医も高齢化するので、老後が安定するを最優先に考え合わせながら、歯科界が魅力的な職業である為の将来花開く何年先を10年前から計算し、その準備もそろそろ整いつつあります。新しいことをやろうと思えば、必ず烈しい反対に会うものです

が、それに屈し甘んじていれば現状の打開はありません。幸い道内の会員の方々には賛成を得られ順調に計画は進んでいまして、有難く思っております。

船本：現在当会で実際行なわれている共済、福利厚生面で、初期には多少の抵抗はあったものの、現在は2周期目に入り、会員の方々にも喜ばれ全く問題ありません。

具体的には、積立金会員1人1口3万円、3口迄を限度とし、休業補償金を1口に付1日1万円、限度を105日とします。ただし、元金は5年ごとに一括返済します。支払う補償金はその間の利息により賄うという制度です。長い間検討し、現在は順調に滑り出しました。これは社団法人だから出来るのであって、民間ではまだ無理ですね。こうしたことが更に発展し、今後、老後の安定ということに結びついて行ければと思っております。

宮武：私は広報、社保、公衆衛生を担当しておりますが、広報活動はこの広い道内の重要なためですので、多方面に渡って出来るだけ詳細に掲載しておりますが、ビジュアルで育った現代っ子に合わせるのに苦労しますが、まあ、お陰様で喜ばれております(笑)。社保の方は、全国どこでもそうでしょうか、厳しくなって来



副会長／宮武忠史

た現状を、会員の為にどんなアドバイスが出来るかを前提とし、部員16名で頑張っております。公衆衛生は、3月の健康まつりを初め学校歯科医、産業歯科医の問題等、この分野は対外的な顔ですから、道民の為の歯科医をモットーに、各都市区歯科医師会の皆さんも一生懸命やってくれ道歯会としても感謝しております。平成2年度は全国歯科保健大会の開催地ですので、これを機に更に良い歯科医師会として発展するよう、全員張り切ってやりたいと思っております。



専務理事／石典芳

石：私は何でも参加しておりますので(笑)、先のお2人の話しもれをお話します。毎年8月には全道あげて〈北海道デンタルショー〉を開催。昨年で第42回を迎えました。年々出展品や講演内容の質も向上し、全道の先生方から喜ばれております。研修制度も新入会員研修会、日歯との共同セミナー、警察協力歯科セミナー等、多方面に渡って、歯科医師としての心構えや自覚、新技術や情報などその道の権威者にお願いし、実績をあげつつあります。学会では1,000人以上、セミナー等は毎回100人~300人と出席者がおりますが、特に将来を担う若い先生方が熱心に勉強されている姿は、素晴らしいですね。





〈診療室拝見〉

辻歯科クリニック

福岡県大牟田市白金町65

院長 辻 政博



官有地の払下げをうけた三井が、巨大な資本を投下し、炭鉱の町として大発展を遂げた大牟田市。しかし、一般人には市名よりも“月が出た出た…三池炭鉱の…”と、今でも盆踊りにはかかせない唄として、全国津々浦々で唄われている歌の発祥の町といった方がわかりやすい。

ご紹介の辻歯科クリニックは、大牟田駅より車で4～5分。三池港に通じる広い県道の角地にある。建物図面を見てもおわかりのように、ちょっと見ると、ロッジかレストランの側面図ではないか、と思わせるほど、変わった形であるが、それを巧みに計算し、明るくモダン、それでいて飽きのこない建物に仕上げている。

道路両側にとった広い駐車場、数えてみるとNo23番まである。近年車が人々の足となり、どこに行くのにも自家用車が当り前の世の中になると、広い駐車場を確保することが、開業医にとって不可欠な条件となり、新たな悩みにありつつある。加えて近年の土地高騰。駅近か、郊外か、開業を控え二者択一を迫られている若い歯科医の方々も多いことであろう。

前置きが長くなったが…。ご紹介の辻歯科クリニックは、とにかく恵まれた土地に、多数の医局員と患者数。信頼と確かな治療内容が根底にあってこそ、実現出来る歯科医院である。建物全体は白いタイル貼り。玄関アプローチは、両側に太い柱、5～6段上ると右側にはテラス風の外部待合室。灰皿が置かれ

ているところを見ると喫煙者は、ここで一服しながら順番を待つという意向であろうが、それがなくても白いタイルの待合椅子は、そのまま、しゃれた建物全体を演出している。

待合室は、薄茶のカーペットに、1人掛けの濃茶の椅子が28脚。窓側と正面に向って並列に置かれている。広い受付台はオープン式で、各種コンピュータ、カルテ棚が、キッチンと整理し並んでいる。

診療室は、先述のように、三角形に凸部を加えたように、やや変った形であるが、中央に三角形の柱を設け、両斜面部は手洗いコーナーと器具キャビネット。受付側の底辺部は内部を利用して消毒コーナーとなっている。12台並んだユニットは、それぞれ色が違うが違和感はなく、かえってともすれば暗くなりがちな医院のイメージを明るくカラフルなムードにしている。各コーナーに取り付けられたテレビカメラは、医院全体の状態を知る為、総て2階にある院長室のテレビにつながっている。又、そのカメラ横には、電球パネルが設置され、現在の受付人数、治療済人数が人目でスタッフ一同にわかるように明示されている。医局員一同が、診療室全体の流れを把握しつつ、自身がどのように動いていけば、効率よく、スムーズに治療を遂行出来るか。各所にアイデアが取り込まれている。

院長は、今年55才。九州歯科大学を卒業後、大学院を熊本大学医学部に学び、医学博士の免状を。その間熊本中央病院、更には市内でご開業中の大先輩である友清先生に臨床実際

を学び、昭和35年、当地に開業された。現在は、脂の乗り切ったベテラン医師として、又大らかな人間性が各方面から信頼を得て、市歯科医師会の副会長、福岡歯科大学父兄相談会長をはじめ各種団体の役職を引き受けられ、公私共に超多忙な日々をお過ごしのようにだ。

スタッフは医師7人、衛生士14名、助手・受付18名、技工士4名、総勢43名の大所帯。診療時間は9～18時であるが、20時近くなくても、全員テキパキと忙しそうに動き回っておられる。お話によると、この辺りも歯科医師過剰といわれたが、やはり良い歯科医院といわれるところには、たとえ遠方でも患者さんは来院する、の感を深める。

Q：この辺りも歯科医師過剰であるとのことですが、その実態は？

院長：私が始めた昭和30年代中頃は、人口22万7千に対し、開業医院数54軒。現在は、15万人に94軒です。開業に対し各地で色々な規制や条件を設けているようですが、当市では何の制限も設けておりません。もう、過当競争を通りこして、戦争ですよ(笑)。以前の様に歯科医師の免許があれば安泰という時代は完全に過ぎ去りましたね。

Q：そうした中であって、先生が若い方々から開業相談を受けられた場合、どんなことを話されますか？

院長：「より上手に」「より早く」「より安く」



TSUJI DENTAL CLINIC



「より良い設備、環境作り」この4つの内、少なくとも3つを実現しませんが、患者さんは満足しないし、今後はやっていけない、と話します。当院から巣立ち、開業された先生は、市内だけでも8人おられますが、皆さん順調に行っているようで、ホッとしております。

Q：こちらの患者数は？

院長：私のところでも昭和53～57年頃は1日370～380人位来院されておりましたが、現在は250名位。治療内容の変化等、一概に人数だけでは判断できませんが、年々厳しくなっていることは確かですね。

Q：ずい分広い敷地を確保されておられる様ですが、ご実家の？

院長：いいえ、実家とは関係ありません。開業当初は、この一角、46坪でしたが、徐々に買増し、今は4カ所の駐車場と母家を含めおよそ1,000坪。でも借金も多いですよ（笑）。1日15人～20人位の患者さんを診るのならいいんですが、やはりこ

の人数が毎日来院される場合はスタッフ教育や治療内容の充実はもとより設備機器も常に良いものになり、駐車場も屋根付きにしたりして、医院全体の環境作り総てに気をつかわなければなりません。長い目でみた投資を、そう心掛けております。でも時々、もっとこじんまりとやれば気も楽だし、と思いますよ（笑）。

Q：ご実家は？ 歯科医師を志された動機は？

院長：割烹料理屋をやっています。男ばかり4人兄弟で、長男は九大を出てサラリーマン、次男は耳鼻咽喉科、三男が跡を継ぎ、四男が私。親父は絶対に浪人や留年を認めませんでしたので、久留米にある医科進学コースから、確実と思われた九歯大に進みました。浪人を認めてくれたら、もっと違った道を歩いていたかも知れませんね（笑）。

Q：46坪から1,000坪。大発展ですね。

院長：その替り苦勞もしましたよ。開業当初は1人で1日100人以上。休日は1年の

内元旦1日のみ。毎日7：30から夕方も7：30分まで、と。もともと私は負けず嫌いでね（笑）。ゴルフもハンディ2、麻雀は4段と。もっとも最近は少し落ちて来ましたが（笑）。

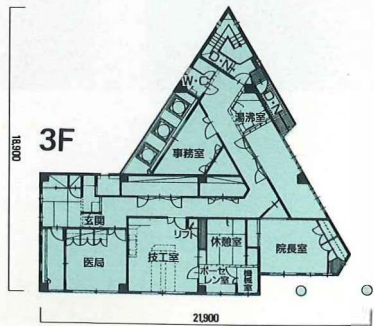
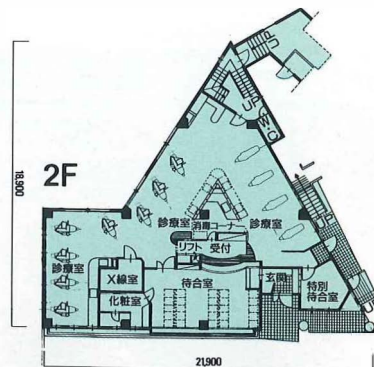
Q：歩まれて来た経験から、若い方々に？

院長：不思議に思うのは、ベテランの技工士、スタッフ等周囲にいるのに、そうした方達と話し合ったり、研究し合うことをせず、何十万というお金を出して研修会だ、勉強会だといって出席するんですね。一概にそれが悪いとはいませんが、身近の、本当に必要な基礎をしっかりと身につけることが、まず大切。最先端の治療に格好が良いと飛びついて、中途半端では信用を失うだけです。地味ですが、まず基礎テクニックをしっかりと学び、同時に医療人としての人間性を養うことが、後々の信頼性につながっていく、そう思いますね。

Q：オサダのユニット、どう思われますか？

院長：開業前、友清先生のところにオサダの丸型ユニットがあったんですよ。良いユニットで、いつかは私も、とずっと思っていたんですよ。しかしなかなか接触がなく…。現在外国製品もありますが、ほとんどオサダのユニットに変えて…。長年の夢がかないましたよ（笑）。

遊びも仕事も一生懸命。スケールの大きさ、話題の豊富さ。魅力溢れる院長である。



〈診療室拝見〉

中川歯科医院

東京都江戸川区篠崎町1-240-1 司ビル2階

院長 中川吉章



JR小岩駅よりバスで約12~13分。近年都営新宿線が開通され、以前はバス便しかなかったこの周辺も、次々と建つマンションや住宅によって大きく変貌、おそらく数年後には、京葉湾岸産業圏に組み込まれる大経済拠点として発展して行くことだろう。ご紹介の中川歯科医院は、東京ディズニーランドに続く篠崎街道の広いT地路の角地に建つ4階建のテナントビルの2階部にある。

ビル側面から入る診療所は、L字型に設計され、限られたスペース故、決して広くはないが、医師1人が地域の患者さんに密着して、ゆっくり丁寧に治療をするスペースとしては丁度良い広さである。こうした方針、運営形態は今後増々、特に都会地では多くなっていくことであろう。

診療室はくの字型で、窓側に沿ってグレーとアイボリーのスマイリー〈フライン〉S型が2台、真新しいセパレーションで仕切られている。ユニット前面には21インチの大型テレビが取り付けられており、常時はBGMに合わせ、美しい風景が流れ、患者さんの必要に応じて、マルチビジョンに早変わり。口腔状態や前回治療箇所と今回治療内容、またブラッシング、歯石除去等、口内に関するあらゆる説明をビジュアル面でカウンセリング出来るよう設置されている。このコントロールは両面から間仕切り内に組み込まれたりリモート操作、ボタン一つで自由に画像を呼び出したり、またCCDカメラにより口腔内を瞬時に映像化、活用されておられるようだ。こうした装置を施しているにもかかわらず、床面は配線も見あたらずスッキリしている。これ等のコード類は総てまとめて、テレビの側面にある1本のパイプ内に収納。特注であろうが、良く考えられていると共に、こうした設備、診療室内の印象は、治療技術プラス医院の附加価値を高めていることであろう。

院長は昭和50年、日本大学歯学部を卒業。更に大学院(歯科理工学専攻)へと進み4年勉学を。昭和54年、現在地にご開業された。

Q: この辺りも歯科医院が増えているのですか？

院長: 実家が小岩駅近くにあり、スペースもありますので、最初はそこを考えていたのですが、医院過剰で、それまでは全く知らなかったのですが、歯科医院が少ないということでここに開業しました。今のところはまだ過剰という程ではありませんが、交通の便が良くなったことから、増えてきそうですね。

Q: 当初はユニットが3台。今は2台にされたそうですが？

院長: 増えるということで、時代の先取りですよ(笑)。いや、本当のことを云うと、3台入れていたのは1人でやるのには2台で充分。1台は故障にそなえての予備だったのですが、10年間の経験からオサダの機械はほとんど故障しなかったものですから、それなら改装に際し間仕切りを入れ、ゆったり丁寧に診療をしようと思ったのです。ユニットも開業以来10年使いましたが、故障もなくまだまだ充分使えましたが、もう減価償却はしたし(笑)、入替えました。

Q: スッキリとした診療室ですね。どなたか設計士と？

院長: いろいろな打合せで半年間かかりました。オサダさんの担当者と設計・施工の八千代樹の方と。ユニットの配管設備も心配ですし、前はエナックや光重合を

別々に使用したので、配線がゴチャゴチャしましたので、この際思い切って足元をスッキリさせたいと思っていました。そこでユニットは総て内蔵のスマイリー〈フライン〉にし、前から思っていたマルチビジョンを前面に取り付け、その線も外部に出さないよう工夫。お陰様で希望通りになりました。

Q: 現在のスタッフと患者数は？

院長: 医師は私と、後輩が代診で2人が夜間に週2日づつ来てくれています。女性は3名。患者数は1日30~40名位ですね。

Q: 夜は遅くまで診療していますね。

院長: 夜は8時としましたのは、患者さんの要望が強いためです。しかし、私はほとんど6時には終り、あとは代診の先生にまかせます。先生方(代診の)も開業に先立ち、自力で診療することを学びませんと上手くなりませんし、歯科医院とはどんな運営・姿勢が必要なのかも覚えてもらいたい、と思っているからです。

Q: 将来は？

院長: 将来はこの辺りにも歯科医院が増えてくるでしょうが、私はそれをどのように受けとめるか、その姿勢だと思っますよ。近所に開院されたらハラハラするか、その医院より負けない実力をつけて頑張ろうとするか、ですね。競争相手が近くにいれば、来院される方にはより丁寧に、より負担をかけないことなど等、



NAKAGAWA DENTAL OFFICE



自身を常に戒めつつ治療にあたる。要は自分の心次第だと思っておりますか。

Q：こちらは予約制ですか？

院長：はい、そうです。しかし原則的にですね。予約なしでも痛がっている患者さんを断わるわけにはいきませんし、医者としての原点から考えると予約制はいけないと思っています。しかし、技工など補綴に関しては、手順が良いですから、予約制を取った方が都合良くいきます。要は患者さんがどのような状態がベスト

か、希望をかなえてやるのが大切なのではないのでしょうか。でも私の場合はテナントですから、時間が来れば閉めてしまいますし、夜間でも救急に備えている先生から見れば楽をしていると思いますよ。

Q：ご自身の勉強については？

院長：これというスタディグループには属しておりませんが、最新の情報、技術は若い代診の先生方が持って来てくれますの

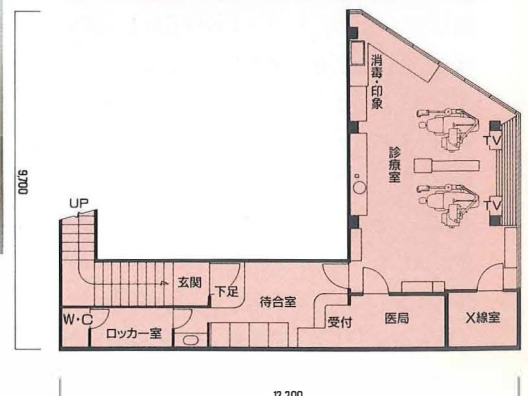
で、見ながら学びます。年齢差は10~15年ありますが、新しいことはどんどん学び、こちらの経験は逆に取って行って欲しい、と思っています。また、私は“新しいもの好き”でしてね。これが新材料、新技法だと云われるとすぐ実践してみます。でも半分位は、ダメの場合が多いですがね(笑)。

Q：オサダのスマイリー〈フライン〉の使い心地は？

院長：以前はスマイリー〈GM〉を使っていましたが、先に云いましたように足元がコードで煩雑になったことから、スッキリさせようと。GMの発展型だということで購入しました。最初は多少違和感がありましたが、車と同じですぐ慣れるものですね。値段も違いますが、その価値を自分でどう判断するか。附加価値を含めた総合的効果は、後になってわかるものです。ただ受ければ、ということなら中古を買えばいいことですから(笑)...

Q：ご趣味は？

院長：競馬です。現在公営川崎競馬場の馬主なんですが、馬名は私の大学院時代に勉強したことから、初代を「レジン」、2代目は「スーパーレジン」としました(笑)。特に2代目・4才馬は3勝をあげ、頑張ってくれています。今年は午(うま)年。公私共飛躍の年にしたいと思っているんですよ(笑)。



Z O O M ち C L O S E - U P



羽賀通夫先生

の巻

東京歯科大学
補綴学第二講座教授

広大な千葉臨海埋立地に移転開校された東京歯科大学千葉校舎。一昨年からJR京葉線も開通し、隣り駅には世界的規模の催場〈幕張メッセ〉が昨年10月オープン。今年6月にはデンタルショーも開催され、大東京圏の一画として巨大な産業経済街を形成しつつある。移転時には不便、殺風景との批判も多少聞かれたが、新築10周年を迎えた今は、木々の緑も増し、落ち着いた、学びの舎のたたずまいを見せている。

会議中と待たせて頂いた医局員室。数人の男性医局員が各種調べ物、勉強中であったが、丁寧な応待で接して下さいました。こうした印象から多分教授は嫉の厳しい、謹厳実直な方と想像していたが、写真でもおわかりのように、にこやかで温厚、口調も柔らかで、誰でも心を開いて話せそうな雰囲気を持主。時折発する当方の不躰な質問にも丁寧にお応え下さいました。

近年アメリカなどでは歯科審美が急成長ということですがその要因は？「歯科審美は限定された別分野のように思われがちですが、それは誤解です。歯科治療は材料や技術の進歩によって変化しつつあります。例えば補綴修復物も矯正も、時代と共に、より自然に近いものを求めることにより、内容が変化してきております。そして歯の治療はつきつめていけば、総て審美につながっているのです。30数年前の私の最初の研究論文も、「前歯の研究」で、現在で云えば歯科審美だったんですが、いま頃改めて、何故？と聞かれても困るんですよ」と笑われる。

お生まれは神奈川県。現静岡大学工学部に進まれたが、お母様が歯科医ということから東歯大に編入。昭和28年同大を卒業。以来37

年近く東歯大と共に歩いて来られた。そうした実績からか、現在は教授のかたわら、今年100周年を迎える東歯大の法人事務局の主事をされ、水道橋校舎の落成、着工される市川新病院等同大の要として、超多忙な日々を過ごされている。また、一昨年は今後大発展をするであろう歯科審美。その第1回大会の会長としてご活躍、日本の補綴学の大家のお1人としての地位を不動のものにした。

今後の歯科審美の展望は？「先に申しあげた通りに、決して審美はいま始まったことではなく、総ての治療は審美につながっているのですが、世の中が豊かになるにつれて、歯を単に咬むことから、外見からの“健康的な美しさ”を求める方向へと進んで来たことは確かです。ただ、日本はアメリカなどとは一般の人の歯に対する認識度が違うのでしょうか。例えば欧米では“スマイルを変えよう”と歯科医が盛んにP.Rしておりますが、日本



では未だ未だそこまでは行っておりません。しかし今後は、単に補綴、修復物を入れるという概念から、一歩進めた患者さんへの啓蒙を心がけることによって、新しい歯科分野が開けてゆくのではないのでしょうか」

東京歯科大学の学生さんは、先生の学ばれた頃と比べていかがですか？「これは当大学に限って、というわけではないんですが、過保護に育ったためか、云われたことはキチッとやるが、自分から積極的に何かを見つけてやろう、という気持ちは少ないですね。真面目で誠実な歯科医が多い、とお陰様で当校の評判は良いのですが…。開業術となると、いまいちですかね(笑)」とおっしゃる

が、羽賀教授ご自身も、誠実・温厚、勉強一筋のお人柄のようにお見受けする。まさに東歯大の見本(?)のような方であるから…うなずける。「昔は卒業すれば、多少、知識や経験が少なくとも曲りなりにも開業できたのですが、こん日の様に歯科医療が高度化、進歩しますと、卒後の勉強の巾が広くなり、すぐにはとても開業できません。その物差しははっきりとはわかりませんが、医科と同じ程度の研修制度が必要になって来ていると思います。そうした気運を政府共々確立化させていって欲しいですね。保険制度にしても、先のように治療総てが審美の追求であることを思えば、保険外ではない筈です。例えば、新幹線で行くか各駅停車でいくか、の違いであり、目的は同じである、と思うのですが」

開業医の方々に、「いま歯科医は過剰といわれておりますが、私はそうは思っておりません。ムシ歯等は減って来ていますが、変わって歯周病や予防歯科、また、食生活の変化により顎の発育が悪くなってきています。疾



病の形が、時代の変化によって、咬合などにどんどん表れてきています。疾病の量は決して少なくなってきておりません。時代に即した歯科医療——1人1人の患者さんの治療を丁寧に、時間をかけ、質的向上を図っていくこと。逆に云えば、今こそ歯科医自身の向上が図れる絶好の機会なのではないでしょうか。国民の要求に応えられる知識と技術。歯科医にとって、最もやりがいのある時代に入っているのだらうと思っております」

故北村勝衛教授の愛弟子と聞く。今年62才と云われるが、最古の歴史を誇る名門校の教授・リーダーとして、更に大きく、世界にその実力を示して行って欲しい方である。

STUDY GROUP 紹介

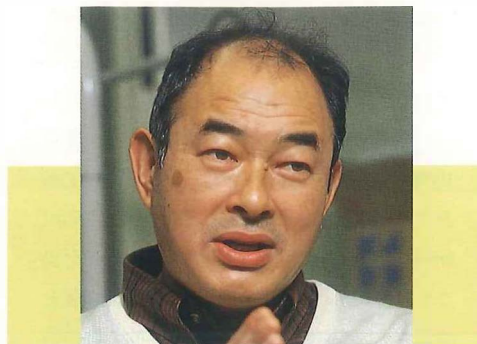
ついたち会 (1日)

会長 仲井 義信 小林 俊三
上野 真人 荒川 明
新井 謙寿 高市 武
和気 裕之 鈴木 敬
田中 英一 谷 光明
水津 博 安藤 正
辻 隆次 小木曾知邦
五十嵐玲子 滝川 直
(順不同)

JR中野駅から徒歩で4～5分の中野区歯科医師会館。その2階を借りて、夜8時より始まったスタディグループ「ついたち会」の研修会。年齢は30～70才代とかなり開きがあるように見受けられたが、逆に云えばそれだけ、今日の歯科医療が経験のみでは通用しない時代に入っていることへの証左であろう。

今晚の講師は、グループ設立の一人であり、全国にもその名が知られている小林俊三先生。題して「患者に喜ばれる総義歯」である。さすがは補綴の大家であり、各地で講演されていることから、内容は高度であるが、各所にユーモアや実践談を取り入れ、我々歯科医でないものにとっても飽きさせない。こうした例会が月1回の割で、会費も無料に近い状態で聞かれる会員の方々がうらやましい。

出席者14名の内、誌面の都合で、代表の方々6名の先生方と急用で中座された初代会長上野先生に、この会の設立動機、目的、運営等を語って頂いた。



上野: 設立動機は、以前中野には海老原先生が中心となって設立された「臨床集談会」というのがありましたが自然消滅し、当時(S57年頃)、全国でも名の通った先生方が主宰される勉強会が出来始め、それならせつかくあった中野でも復活させようではないかと、小林先生のご支援のもと設立しました。設立時は、若手中心で、外部講師は一切呼ばず、ケースプレゼンテーションを順番に従って、かなりハードにやってもらいました。当初の方針は、人の話を聞くだけではなく、自身の診療方法を公開し、意見や批判を聞き、それを、また自身の臨床に取り入れ、向上・反映される、ということでしたので、皆さんずい分ご苦心されたようですが、そうしたことが身につく、初期の目的は一応達成された、と思っています。こうしたことを基本に、更に幅広い知識を積重ねることは、今後の歯科医師にとって大切なことで、現会長であり多方面にご経験を持つ仲井先生に期待するところで。

新井: 会が始まって足かけ8年になりますが、会員は現在15名。ご高齢で抜けられて行く方もあり、また新しく入会される先生もありで…。特別入会条件などはありませんが、強要することもなく、自然のままに、というのが当会の現在の状況。

従って、今はテーマもその都度、興味のある臨床のあれこれや情報を選び、皆で話し合います。幸い今晚お話しされた小林先生は、マスコミ関係はもとより、技術や経験、また各地で講演されているところから、内外の新しい情報、ニュースを仕入れられ、その都度お話し下さるので、非常に勉強になります。最初は2～3年やればよという気持ちでしたが、会則もなく、本人の自由意志にまかせて、というのが、やはり長く続けられた原因でしょうか。出席するとストレス解消にもなる、という先生もいる位で(笑)。

鈴木: 「ついたち会」と名づけたのは、月初めの1日か2日位迄は、この会館が空いている場合が多いからで、深い考えはないんですよ(笑)。当会の前身は昭和34～35年で、当時は私もピチピチしておりましたが(笑)、60才過ぎた今は、私達の体験、歯科医師としての姿勢一患者さんに喜んでもらう仕事とは? を基本に、色々話し合える会として出席しております。国民の経済状態も良くなり、歯に対



しての関心も深まったということは、私達も、反面やりやすいということにつながるわけです。患者さんの為にどうすれば最も良いか。これを常に考えながら、今後は当会も更に良い方向に向かって行って貰いたい、と若い方々に願っております。

谷：ケースプレゼンテーションも良いでしょうし、時に当会もやっておりますが、それはあくまで本人の自由意志。例えば、この会に出て患者さんのグチのアレコレや、臨床中に考えていたことなどを気軽に話せる会であっても良いと思うのです。以前は歯科医の云う通りにしなさい、ということが通用しましたが、現在は患者意識も高まり、とても通らない時代。そうした悩みを如何に解決するか、話し合い、勉強し合いながらストレスも発散出来れば(笑)と考えております。

小林：上野先生から相談を受け発足しましたが、当時若かった方々も役職につかれ多忙となり、世代交代も出て来ておりますが、その時代に合わせ、また、会長により特色を出しながら共に向上しよう、という方針は変わらず、素晴らしいことだと思っています。また、今後活躍される若い方々が、こうした場を利用し、自分の考えを上手くまとめ、要領よく話すクセが出来れば、将来必ず役立つ時が来ると思っています。新しい臨床方法も1回だけではなく、何回も聞けば、自分で挑戦してみようという気持ちも起こって来ます。そうした意味も含めて、スタディ



グループは長く続けることが最も大切ですね。

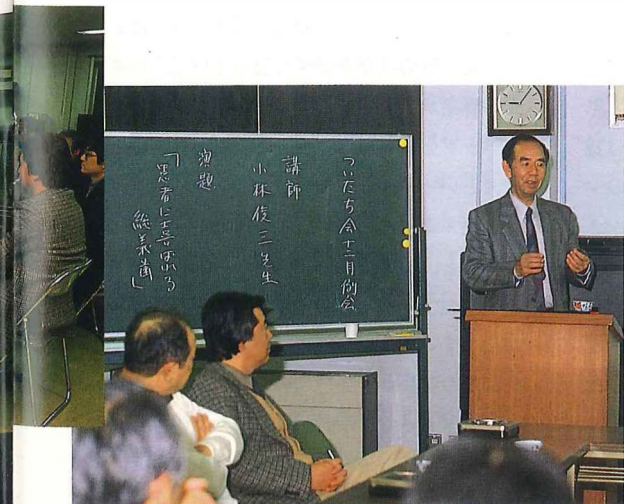
和気：仲井先生のところで勤務医をしていたことから、この会に入会させて頂きました。住まいが横浜、大学に週2日、母親教室等と忙しい毎日ですが、ここに来ると、普段私が抱えている悩みを話すと皆さんも同じで安心するんです。また、勉強内容も、すぐ使えることが多く、身につきますね。長年この道で苦勞された大先輩も多いのですが、そうした方々も気軽に体験談を話して下さい、良い会に巡り会えたと喜んでおります。

編集：では最後に会長先生に今後の方針をお聞かせ下さい。

仲井：会長は順番制であって、私が立派だからというわけじゃありませんから、それだけは必ず書いて下さいよ(笑)。上野初代会長、荒川2代目会長さん達がご苦心下さったことが、今日迄無事続けてこられた要因です。また、近年は高市先生が毎月の連絡を、時にはユーモアを混ぜて絶やさずやって下さることも、会

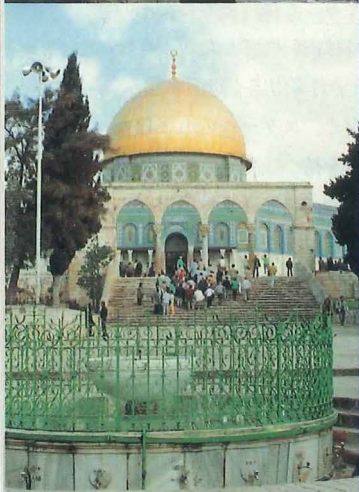
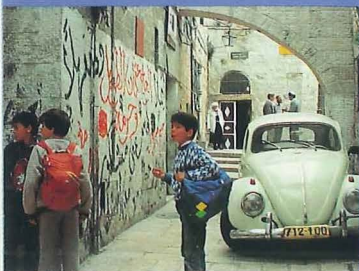
が長続きしている大きさは要素だと感謝しております。

ただ私は、歯科医師になる前に、薬大を出たり、父の建設会社を手伝ったり、レストラン経営をしたりで、歯科医一筋の道ではありませんでした。そんなところから、私なりの発想として、今迄は“歯科医からみた世間”を、“世間からみた歯科医”とは、に少し変えて勉強してみようかと思っています。患者は千差万別、そうした中であって、歯科医の人生像とは、を客観的に勉強して行くことは、必ず将来役立つと思えますし、この会の為に私が役立terことは、と考えた末の結論です。先月は内科医でしたが、今後は商社マン、科学者等巾広く講演を頼み、単に歯のみでなく、スケールの大きな人間としての魅力を持つ歯科医に育つことが出来れば、と願っております。幸い小林先生を初めとして、会員の方々が賛成して頂きましたので、この一時期をそうした方向の会として精一杯やってみたいと思っております。



海外だより

イスラエルの歯科事情と民族の背景—(その3)



イスラエルという国の起源はアブラハム、つまり彼がユダヤ人の先祖ということから始まっている。初めてこの国を訪れた私は、この国の奇妙な魅力の虜になった。

日本の様な山河の美からほど遠い、荒けづりのゴツゴツした国で、街を一步出るともう広野だったり、山岳地帯だったり、砂漠だったり国境だったりする。その合間合間に小さな街、住宅のかたまり、又はベドウィン(アラブの遊牧の民)のテントが存在する。

開拓中の新世界という印象が強烈だが、同じ新世界のアメリカとは根本的に雰囲気異なる。アメリカは、基本的に身軽で陽気で豊かというイメージが、イスラエルの方は不毛で食しく何か重々しいものを引きずっている雰囲気がある。イスラエル取材旅行中、私はその重々しさはこの国の長い歴史からきていることに気がついた。

ドライブしていてイスラエルの国旗でもない見かけない旗にぶつかる。良くみると羊の様なシンボルの旗である。聞くと、「ああ、あれは〇〇地帯のシンボルです」という返事が戻ってくる。アメリカの州旗のたぐいかと思ったがそうではなく、「祖先アブラハムには12人の子供があり、イスラエルはそれぞれのシンボルを持つ地帯から成立する結果となりました。現在でも基本的にはこのシンボルです」となる。勿論何千年前に遡る話だから、現代ではそれぞれのシンボルを持つ多数の村や郡が存在するが、ひとことというそれらは本家に対する分家という関係らしい。「現在のイスラエルには145のダイナスティがあります」という。「ダイナスティ」とは普通王朝の意味だが、この場合は権力を握る家系といった方が正しかろう。

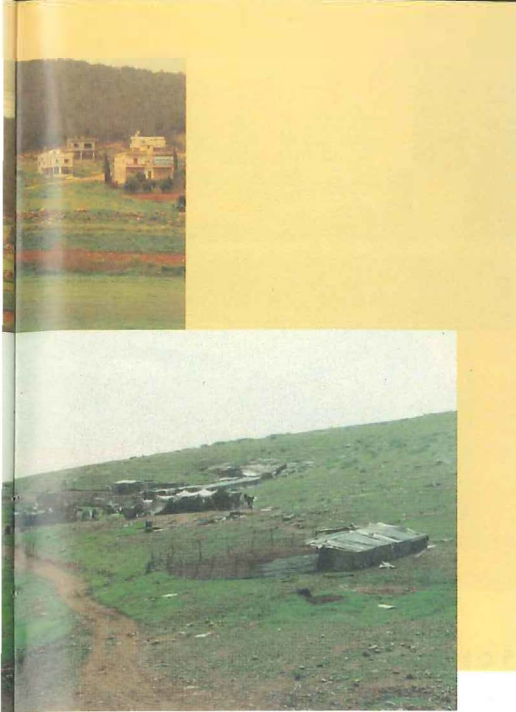
どこに行っても歴史にぶつかり、2~3千年前の出来事がまるで昨日の事のように語られる。そして「神」がひんぱんに登場する。

『この地帯の人民は墮落しきっているから破滅させる。お前達夫婦は善良だから助けてあげる。だから早く逃げなさい。しかし後をふりむいてはいけない』と神が云った。しかし妻の方はその命令にそむいて、逃げる途中後をふりむいたので罰が当たって石となった—これがその石です—といった具合である。この女の岩は死海の近くにあり、観光すべきもののひとつとなっている。

ユダヤの建国者モーゼの息子がパレスチナの古都エリコを攻めたがなかなか落ちない。そして神のお告げがあった。「城砦のまわりを、男も女も子供も動物もみんなで7回駆け廻り、7回廻ったらトランペットを吹きなさい。そうすると城砦は落ちる」それでそうしたら城砦が落ちたという。今日でも宗教心のあつい人はこの話を信じている。しかし現代人の中には、たまたま地震が起きたのではとか、元々城砦はガタガタになっていて、ユダヤの群衆がドタドタまわりを走った揚句トランペットを吹いたのでその震動で倒れたのでは、といった考え方も発生している。

点在する町や村を車で走り抜けて山岳地帯に入ると、山や丘の間というか隙間にひよいとどぶねずみ色のベドウィンのテントや小屋が出現する。これらアラブの遊牧の民の住まいは多くても10軒位で、殆んどは2軒から4~5軒できまって羊や犬がその周りを徘徊し、その間で子供が遊んでいる。良い天気だと、色彩豊かな洗濯物がたれ下った旗の様に小屋の傍になびき、テントの外では食事の用意らしい煙も見られ全くのどかな風景である。





この人達は、「遊牧の民」という言葉通り羊や山羊を中心とした生活で、半年位でテントや小屋をたたんで次のこれと思われる場所に移動する。イスラエル政府が、荒野を草を探してさまよわなくても良いようにと、ベッドウイン用のアパートを建ててやったそうだ。テレビや冷蔵庫といった近代設備もついているのに「彼等は有難がらず野宿の方が良い」と、私の案内役のイスラエル人が云うので吹き出してしまった。そりゃあ雨や風がで不便なことも多いだろうが、数世紀気ままに文明圏のルール外で暮してきた人達にすれば、アパート生活は箱の中にとじ込められたに等しかろう。餌は定期的に貰えるものの、暗い地下室に押し込められた山羊達にとっても難迷惑千万というものである。イスラエル政府にとっては、この人達にあまりあちこち動き廻られては保安上困るという問題もあるが、イスラエルのこの頭痛はまだ当分続くと思われる。

アラブとイスラエルの部落作りのアプローチは基本的に異り、アラブが山の麓を選ぶのに反し、イスラエルは山の頂上を好むという。なるほどそういわれてみると、数10軒からなるアラブの村で山の頂上に存在するものには一度も取材中お目にかからなかった。アラブ人が長期的に腰を落ち着ける気分になるのに必要な条件は、まず水源に近いこと、ついで商業用の道(つまり道路)にも近いこと、そして山羊、羊、子羊を飼育出来る土地であることといわれる。ということは、アラブ人は基本的に生活の糧に気をとられており、山の頂上を好むイスラエルの民は保安に気をとられているのかも知れない。

そんな思いにとらわれながら最後の取材先、イスラエル最大の都市ハイファにあるインスティテュート・オブ・アドバンスド・デンタル・エジュケーションのアリエリ教授(Prof. Eliahu Ariely)を訪ねた。先に一寸述べた様に、このインスティテュートのクリニックは1928年にロシアからイスラエルに移住したエオリ女医の努力で生まれたものなので、「エオリ・センター」と呼ばれており、ハイファ最初の矯正歯科クリニックである。未亡人だったエオリ女医は、移住後数年建築工事現場で働いて息子との生計をたてたとある。生活が落ち着いてから彼女の歯科医としての活躍が始まるわけだが、当初は道もない辺鄙な部落にロバに乗ってテクテク治療の為に向いたと伝えられる。

正式にセンターとして誕生したのは1967年と聞かすが、パートタイム勤務を入れると、今日では歯科医18人、看護婦18人、ハイジニスト6人、テクニシャン6人、そして事務員6人の士帯に成長しており、抜歯、充填、根管治療、可撤義歯、固定義歯、歯周治療、手術と年間平均12,500件の治療をこなすに至っている。それに加えて、学童の不正歯列矯正治療も年間平均3,500件取り扱っている。

インスティテュートの方は、ハイファ歯科協会に依って1971年に非営利団体として設置されており、当初の目的は歯科医の為の高等教育・訓練であった。現在はこの目的の巾が広がって、①ハイファ及び北部イスラエルの低所得人口に必要とする歯科治療の提供、②ハイファの学童達向け歯列矯正サービスの提供、③傷痍軍人、高齢者、経済的に恵まれない学生向け治療サービスの提供、そして④イスラエルの歯科治療レベル向上の為の歯科医向け訓練と専門化一となっている。

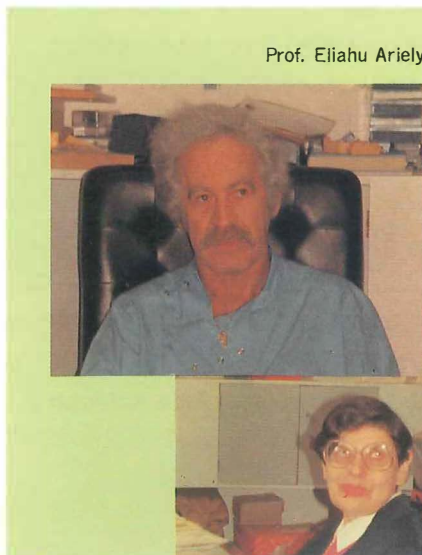
専門科課程をとるにはDMDかDDSの資格

を持っていることが必要であり、又3年半の高等研究(週35時間)を継続することが法律で規定されている。移民歯科医はイスラエル事情に精通する為と治療レベル維持の為、まずこのインスティテュートで高等教育を受けることとなっており、これ迄に80人程の移民歯科医がその課程を終了している。

エオリ・センターとインスティテュートは1983年に合併し今日に至っている。こういう話をしてくれたアリエリ教授は、1979年にインスティテュートのディレクターとなり、同時にその委員会の会長の役も兼ねる人である。彼のただっ広いオフィスに案内されて、これ又ただっ広いデスクの向うに坐っているアリエリ教授(以下A教授)に会った途端、私は「アインシュタインの様な人だ」と思ったから不思議である。衆知の如く、相対性原理で知られるアインシュタインは、米国に帰化したユダヤ系ドイツ人物理学者である。

A教授のもじゃもじゃの髪や髭が私にアインシュタインを思い出させるきっかけとなったのは確かだが、人が無形の名刺の如く持ち歩く体験と思考過程からくるその人特有の雰囲気もその理由だったかも知れない。

いかめしい肩書きとその風貌に似あわず、A教授はひと皮むくと茶目っ気たっぷりの人と見かけたが、事実全くその通りであった。彼の机の上にアメリカの赤いパッケージのモア(タバコ)がのっていたので、私はグリーン(メンソール)のモアをポケットから取り出した。案の上彼は(タバコを吸うーそれも私と同じブランドを)ということで親愛の表情を浮べ大きな手で私のタバコの火をつけてくれた。こうしてタバコをふかしながら、同席した彼の助手、ラヤ・ペレグ(Raya Peleg)女史がいれてくれたコーヒーを飲みながらの話となったわけである。



Prof. Eliahu Ariely



Raya Peleg

彼はドイツのハイデルベルグ大学で医学と歯科学を学び、彼の文献は日本語でクインテッセンス・オブ・デンタル・テクノロジー誌(1986年1月号)にもっている。彼の略歴をいうと、1948年からの10年間は将校として軍役、1957年からの10年程はデンタル・テクニシャン、「6日間戦争」後ハイデルベルグ大学留学。歯科学の方は1972年に、医学の方は1975年に終了し、1976年迄8大学の講師をやり、このインスティテュートの現職につく迄は開業医となっている。

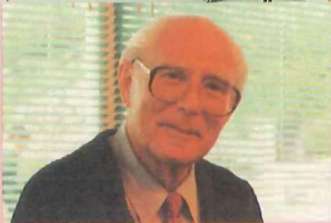
1952年に結婚した奥さんとの間に2男2女があり、長男(37才)は歯科医、長女(32才)は結婚してビジネス・マネジャー、次女(30才)も結婚しており心理学者、次男(27才)は歯科医になりたてと話してくれた。

軽食家で、起床6時で朝食はパンとコーヒー、お昼迄に3リットルのお茶を飲み、ランチは野菜とドライの赤ワイン、午後コーヒーを飲んで、夜は一切れのパンとチーズと野菜だそうだ。週末には海岸や森を3~4時間散歩し、あとは専門書を読んでいる中に過ぎてしまう。

日本へのメッセージは、日本人はやさしくて、協力的で、心が広くて、勤勉で、良い人達だから、個人的にも、科学的にも、「本当の友人」となれます。このインスティテュートにはまだ日本からの留学生も講師もいないのが残念。

ここの学費は4,000ドル程度だそうだ。無から始めていまだに経済的には楽でない模様なので、可能ならどういふ援助を希望しますかと質問してみたら、A教授から次の様な返事が戻ってきた。

情報交換がしたい一特に日本のメーカーと協力して機器・材料のテストがしたい。日本のメーカーには、この国の歯科学向上に参加してほしい。具体的機器・材料ということでは、インプラントの材料研究がしたい。そして特別な装置のついたビデオ・カメラ——オサダが開発したマルチビジョンの様なのがいい。



E. Frankel



「近くだから寄ってみましょう」とゾーハー(Zoha)さんが云うので、デンタル・ディポーに立寄った。「ディポー」と云えば、アメリカでは汽車の停車場、イギリスでは倉庫、貯蔵所の意味である。イスラエルでは後者の意味に更に卸し店の役割が加わっている。デンタル・ディポーは輸入業者から材料・機器を購入し、それを歯科医に販売しており、その特定地域の流通網の要となっている。

私が立寄ったハイファのデンタル・ディポーは、山の中間地帯の住宅地にあり、そのショールームにはありとあらゆる歯科材料・機器類がぎっしりと飾られていた。オーナーのE・フランケル(E・Frankel)さんはドイツ生まれで第2次世界大戦の時は、大尉の位で英国陸軍に参加したそうだ。イスラエル移住は1934年というから、半世紀以上も前のことになる。背骨をのぼしブーツをはいて闊歩するフランケルさんの姿には、仕事をフルにエンジョイしている人の雰囲気溢れ、75才にはとても見えない。

彼の哲学は若い人材を育てることだそうで、そういえば彼の後継者となるパートナーも20代の青年だし、このディポーで働く人達は皆若々しい。

日本についての彼の意見は、最初は「安かろう悪かろう」のイメージがあったので取扱うことを拒絶したが、今は全くその反対。「日本製品はアメリカやドイツのものより良いですよ」という。唯一の問題は「時間がかかりすぎる」こと。入手するのに平均3ヶ月から4ヶ月かかる。緊急の場合でも1ヶ月かかるそうだ。それに比べて、必要とあれば、ヨーロッパの場合は48時間で入手出来るという。ちなみに彼のディポーは、ハイファ地域の750人の歯科医その他に製品・材料を売っているそうだ。彼の愛用車は三菱とスバル。車とい

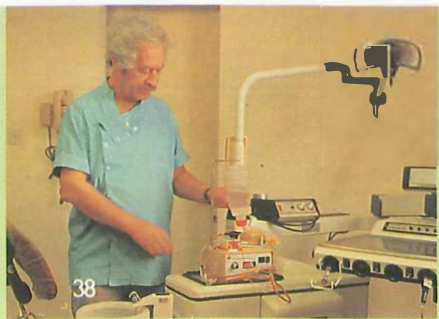
うことではイスラエル中を面白いスタイルの車が走っている。メーカーに関係ないその共通のスタイルは、車の前半分は自家用車なのだが、後半がミニバン式になっていて、何だかカタツムリが近代的に走っているといった感じである。

特にイスラエルの人達がこの特定のスタイルを好むので、この国ではこのスタイルの車が多いのかと思ったが、そうではないらしい。政府の規定で、マイカータイプはたとえビジネス用でもビジネス経費として認められないが、マイカーとミニバンの合成スタイルならビジネス経費として認められるから。ひと言でいうと税金対策がその理由であるらしい。

「日本のコンピューターで製品デザインし、品質管理をしている工場を見学しませんか」といわれた。砂漠の近くというので、それでは工場見学半日、砂漠半日にしようということになり車に乗り込んだ。

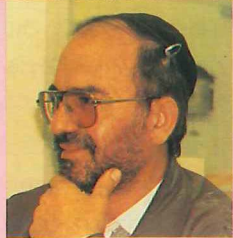
E・R・ダドン社は、これ迄イスラエル空軍や陸軍の仕事を中心としてきており、私が訪れた工場ではタンク生産も手がけていたが、近年軍事予算がけずられ仕事が減ってきたので、現在方向転換中という。新方向は病院向けベットで、あらゆるニーズを考慮してデザインされており、移動・回転・各装置が楽で又自由自在、患者の各局所をそのままレントゲンに撮ることも可能だし、特に手術後の患者用として重宝されているという。

オーナーのエドモンド(Mr. Dadom Edmond)さんの話では、このベットをデザインする前に医師達を多くインタビューして、彼等のニーズや希望を聞きとったそうだ。お陰でなかなか好評の様だ。フランス製のベットの骨組だけでFOB価格600ドル程するが、この自由自在の便利なベットはFOB





Mr. Dadom
Edmond



1,000ドル。ゆくゆくは欧米に輸出したいと彼は言う。

エドモンドさんは8才の時この国に移住し、最初はテント暮らしだったそうだ。今では3つの工場の持主である。彼の工場にはデンと巨大なオークマ・マシーナリ・ワーク社のコンピュータ機械が入っていた。1年前にミラノの展示会で見てオーダーしたという。彼の品質管理室にも、色々日本製のテスト機器類が入っていた。「安かろう悪かろう」時代から、アメリカで日本の広報活動に参加してきた私は感慨無量だった。

工場見学後砂漠に行く予定だったが、キブツ・マルキア(Kibbutz Malkia)からのFAXが回送されてきて「待っている」とのことなので、そちらに行くこととした。此処から片道2〜3時間、ゴラン山脈ガリラヤ海伝いに北上し、「イスラエルの指」と呼ばれる地の果てでレバノン国境と聞いてもピンとこない私は平気だった。ドライバー役の空軍大佐が、コンパートメントの拳銃を点検するにあたり、「いささか物騒なところかも」と思った位である。

走り出して小1時間位でガリラヤ海。キリストがその水面を歩いたとバイブルにある海である。30分程その傍を北上し、別れを告げて山岳地帯——といっても無毛の小山の連続地帯——に入る頃から黄昏が濃くなり、小山を次々とのぼっていく中に暗くなってしまった。人影はおろか車も私達だけである。分岐点になると、懐中電灯でロードサインを照して読むしぐさを繰り返しながら先に進んでいる中に、右手が鉄条網となった。つまり国境である。これは何百メートルという幅で、この地帯にはりめぐらしてあり、それにさわるとすぐさまイスラエル戦闘機と軍隊が飛んでくる仕掛けとなっているそうだ。パレスチナ

のテロリストはそれにも懲りずこの鉄条網の海を突破してくるという。「ついこの間もハングライダーでこの鉄条網の上を飛んできたのがいて、射殺される前に数人のイスラエル人を殺すことに成功した」と、話題は場所に似合ったものとなってきて、いささかツクづくしてきた頃に目的地の教育玩具工場キブツに到着。

回りに鉄条網をはりめぐらした要塞の印象で、私達の車が近付くとパッと電気がついて煌々とあたりを照らしだし、目の巨大な鉄の門がスルスと両側に開く。空気は澄みきっていて冷たく、監視ビルの中の番人以外には人影もなく、物音ひとつなく、まるでサイレント映画のシーンを見ている錯覚におそわれる。

待っていてくれたモート・リーマン(Mort Lehman)さんの案内で、玩具製造過程をくまなく見せて貰ったが、こんな物騒な山の頂上に良くこれだけの製産工場があるものと舌を巻くばかりである。オルダ社のこの教育玩具工場キブツのメンバーは110家族で、兵隊や子供達も入ると400人程がここに住んで働いている。

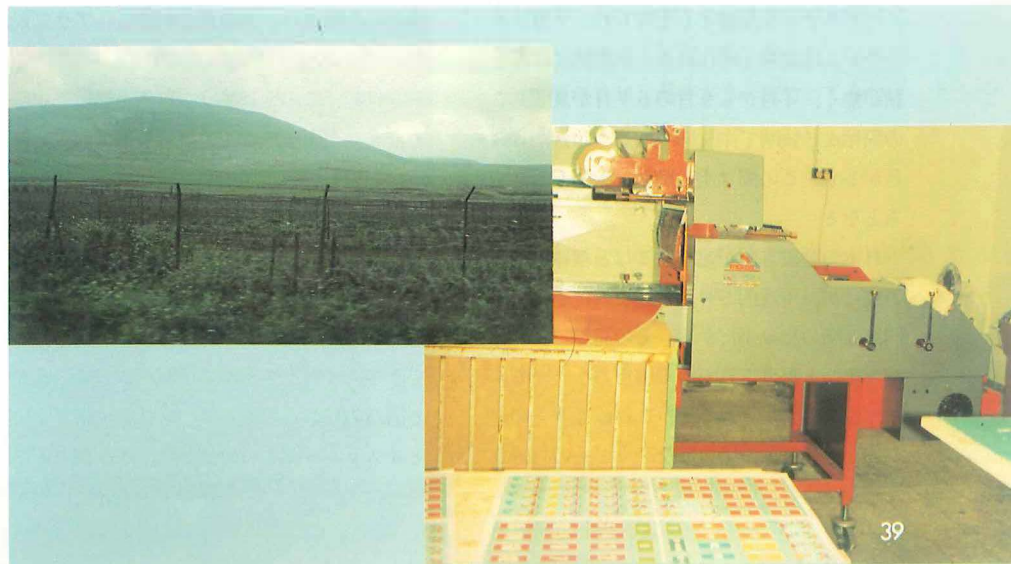
イスラエルには280程のキブツがあり、イスラエル人口の3%位がキブツに住んでいる。キブツとは自治体制集団で、80年程前に発生しており、その特長はメンバーは皆平等で勤労と財産も平等分配することを前提としている。キブツはザイオニズム(シオン主義——国家的統一の為にユダヤ人をパレスチナに復帰させようとするユダヤ民族運動)発展に大きな貢献をすることとなった。というのは、東ヨーロッパの貪しいユダヤ人にパレスチナで働く場所を提供することに依って、1948年のイスラエルという国の誕生の基礎作

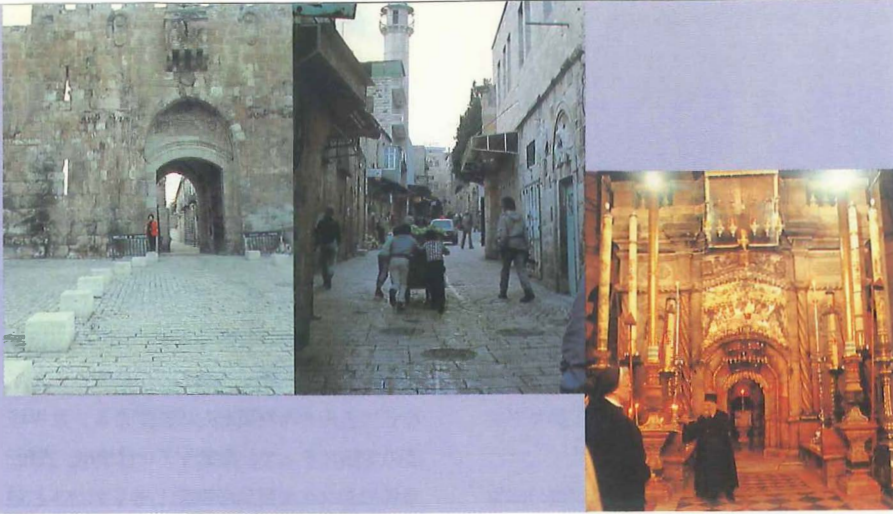
りとなったからである。それでキブツの多くは、移民収容の為に作られたり、地理的には国境や戦略的通路警護を目的として作られている。

初期のキブツは農業養畜が主体で、主権を握る労働党のお陰で金利の安い融資もふんだんで、どんどん発展した模様である。世界経済の変動にそって、農業キブツは機械、衣類、家具、オフィス製品の製産工場キブツへと発展し、メンバーの住居も小屋の集団からプールやテニスコート付きのアパート建築へと発展した。

問題はこれらの発展が融資でまかなわれていたことで、労働党が主権を失い、400%のインフレ対策に金利が暴騰するにあたり、多くのキブツの負債はあつという間に2倍になった。今日キブツ全体が抱える負債額は40億ドルといわれ、これはキブツのメンバー1人当たり3万1千ドルに当り、メキシコの1人当たり負債額の30倍という。

成功しているキブツは少数で、殆んどは赤字だろうと、800人のキブツで1千200万ドルの負債を背負っているところもある。こういう羽目になった何よりの原因は、キブツのユートピア的理想に基づくそのシステムにあるとされ、近年その見直しが始まっている。すべて平等ということで、メンバーの仕事は定期的に回転する。つまりそれが誰であれ、今月は掃除の役、来月は監視番、その次は製産工場——といったことで、製産について体験豊かなメンバーが家畜の小屋の掃除をするかと思えば、体験皆無のメンバーが会計の当番になったりと、ひとことと言うとこの世離れたアマチュア方式がキブツ不況の原因とされている。そういうこともあって、キブツの若者達の半分以上がキブツ離れ傾向と伝えら





れている。

予定外のスケジュールが色々に入ったので、今回は砂漠旅行を断念することとした。しかし「嘆きの壁」と「死海」を見ずにこの国を去ることは出来ない。日曜日にエジプトに発つので、金曜の午後ジェルサレムに向い、その夜はキング・デイビッド・ホテルに泊ることとした。土曜の朝チェックアウトし、死海にドライブする予定である。ところが「土曜日は安息日なのでチェックインもチェックアウトもしません」という。金曜の日没から土曜の日没迄食堂も閉るといふ。しかし例の私流であとは野となれ山となれで、予定通りチェックインし、ガイド役のドイツの学生とホテルを飛び出した。ジェルサレムの「古都」の門が5時に閉るので、それ迄に少しでも見ておく為である。

イスラエルの人口は丁度450万人で、中83%がユダヤ人、16%がアラブ人で、宗教的にはユダヤ教83%、回教徒13%となっている。国としてのサイズは米国のニュージャージー州とほぼ同じで、北はレバノン、東はシリアとヨルダン、西はエジプトに囲まれている。個人所得は資料にも依るが2~3年前で丁度6,000ドルとなっている。首都エルサレムの人口は43万1千人、テルアビブのそれは33万人、ハイファは22万8千人である。

パレスチナは聖地として知られ、一方、エルサレムは聖都と呼ばれる。気候的には春と秋が無く、4月から9月の6ヶ月が夏で、この間殆んど快晴で雨も降らない。10月から3月が冬で、この間は雨も降り、太陽も曇りがちとなる。

日本の歴史も気が遠くなるほど複雑で波瀾万丈だが、所詮四方を海で囲まれた小国内の同民族間の出来事だから、その記録はまだまだキチンと整理されている方だろう。一方ユダヤ民族の歴史となると、これはもうその地理的にも異民族との入り交じりでの複雑さ

に全く気が遠くなる。そもそも神が紀元前1800年、つまり今から3800年前にアブラハムに「この土地を去って私が示す土地に行きなさい」から始まる歴史である。それから500年以上経ってやっとモーゼがヘブライ人を率いてエジプトを脱出するのが紀元前1230年頃で、やっと私達に馴染みあるユダヤ王国の統治者達——キング・デイビッド(紀元前1000~961年)やソロモン王(紀元前961~922年)の登場となる。

ソロモン王の紀元前938年にユダヤ王国は分裂し、ユダとイスラエルの2王国の対立となり、北のイスラエル王国は紀元前722年にアッシリア王国に滅ぼされ、南のユダ王国も紀元前586年にバビロニアン王国に征服され、ユダヤ王国復活の紀元前168年迄にペルシャやギリシヤ王国もこの地を征服している。ローマ帝国の侵略も進んでおり、ユダヤの権力者の扇動と策略にのつたローマの兵がキリストをエルサレムで十字架上で磔刑にする。時は西暦30年、孔子が中国で没してから509年後のことである。

以下西暦をはぶくこととし、ローマ帝国は70年にエルサレムを征服、135年にそれを破壊し、このパレスチナ南部の古代ローマ領をその当初の住民、ペリシテ人の名にならってユダヤ・パレスチナと改名したものの、180年頃から今度はローマの衰亡が始る。アラブ民族のパレスチナ征服は636年で、以後の2~3世紀、この地はアラブ民族と回教徒中心となりユダヤ民族は少数派となっている。聖地征服の為の第1回十字軍出発は1096年で、十字軍が解散された1272年迄に7回繰り返されており、その間エルサレム王国建設に貢献したと伝えられる。

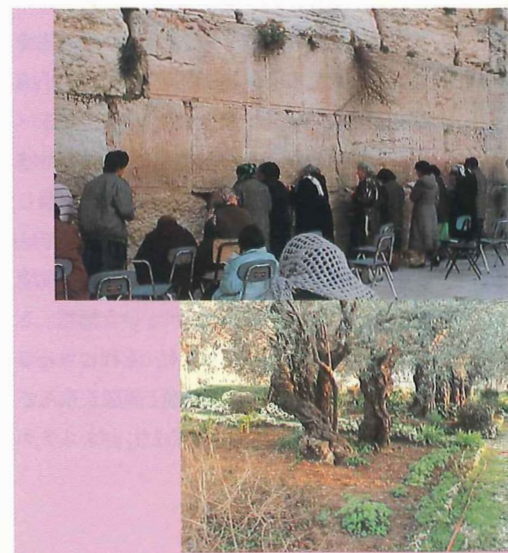
その後サラディンだ、ナポレオンだとやってきて、イギリス帝国の征服が1917年。しかし国連の1947年の宣言でパレスチナはアラブとイスラエル国土に分割され、イギリス領主

は1948年に消滅。一方19世紀後半から始まり1930年代に入って多数の避難民であるユダヤ人移民がどっと聖地になだれ込み、シリアやレバノンからの移民も増加していた折から紛争は毎日に頻繁化していたので、この国連決定はこの紛争を本格的にすることとなり今日に至っている。

ドイツ人学生のマリアに私は2ヶ所——「嘆きの壁(Wailing Wall)」とキリストの歩いた道程——を案内してくれるよう頼んだ。前者は「ウエスタン・ウォール」とも呼ばれ、数世紀にわたり残っている最後の壁で、ユダヤ民族にとって最も神聖な遺跡である。そこに駆けつけた私は、ナイフで切れる程厚く渦巻く何世紀もの人間の恩讐を感じ鳥肌立った。死後も残された人の想いと、これ程凄まじいものなのか。過去と未来の時間の中で壁をさすりながら祈る人、つぶやく人、泣く人、そして瞑想する人、数10人は、この無言の壁の代弁者に他ならなかった。

キリストが十字架を背負って歩いた薄暗い道程は、段々の多い曲りくねった石畳で、道の両側には古風な建物がびっしり聳え建ち、ところどころに屋台や店が並んでいた。古風な建物の頑丈な門のいくつかには、「此処でキリストが……した」と書かれてある。つまり十字架の重さにつまづいたり、見かねた群衆の中の誰かが差し出した柄杓の水を飲んだりということであろう。

道程の順が時間の都合で逆になったが、次にキリストが囁く前夜祈ったというゲッセマネの庭を訪れた。教会の門衛が「あと5分で閉めるから出直さない」というのをそれこそ拝み倒して中に入る。何とまあ、こじんまりと可愛くも綺麗な庭であったことか。樹立の姿はまるで日本の盆栽を人間サイズにした



かの如く優雅で見とれるばかりである。門衛が情け容赦なく急ぎたてるので確認できずに終わったが、これらの樹立は多分ドッグウッド(ハナミズキ)であったと思う。イエスの十字架はこの木で作られ、当時は真直ぐ背の高い木だったそうだが、磔刑以後恥じて今日の曲った背の低い姿となったという。白とピンクの花をつけるが、花びらには釘のマークが出ているともいわれる。

古都は閉ったがまだ日没には時間があつたので、裏のオリーブの丘に登る。丘といっても小山で、急な道は曲りくねり息切れすることはない。ヘブライのお偉方や予言者や、アッシリヤ、バビロン、ペルシャ、ローマ、十字軍の騎士や王者が通った路と思うとその響や足音が聞えてくるようである。頂上近くになるとエルサレムの方を向いて何百という石棺が並んでいるのが目に入る。埋葬されているのは、神の子イエス・キリストが最後の判決の為この世に再度姿を現わすのを永遠に待ちこがれている人々である。

翌日土曜の早朝、又古都を訪れた。30分も昨日見えなかったハイライトを廻り、迷路さながらの石畳の小路を歩いていたら、突然「パン・パン」という破裂音がして、私のすぐ傍にこぼし程の石のかけらが飛んできた。「すわ 撃ち合い？」と身を伏せたが、鼻先の4人のユダヤ人が走り出したので、アラブの女・子供達が彼等に石をぶつけた仕業と判明。あんな勢いであんな大きな石をぶつけられては、当り所が悪ければ死んでしまうという事実をいみじくも目撃することとなったわけである。この出来事が発生して、すぐ古都は閉鎖となり、各門の外には連発銃で身を固めたイスラエル兵が集合。翌日カパーンサンデイ(復活祭直前の日曜日、キリストのエ

ルサレム入りの記念日)なので、イスラエルはもとより世界各国の礼拝客が特に多い日で、わざわざ此処迄やってきて中に入れない彼等が気の毒であった。

「案ずるより生むが易し」とは良く云ったもので、出入り禁止の安息日に私は何の問題もなくホテルをチェックアウトすることに成功。それからマリアと付き添いのドライバーと私の3人は「死海」目がけてまっしぐら。野越え山越え走りに走る。その中まわりは岩だらけの荒々しい山岳地帯と峡谷の連続となる。「貴女は本当に運の良い人だ。雨が降ったら此処迄来れなかった」と云われて何のことかと思ったら、この辺は雨が降ると峡谷の川底があつという間に滔々たる洪水と豹変し、逃げ場を失なった動物でも人間でも、更に車まで押し流してしまうという。そんな恐しい川底は、その日は水気ひとつなく唯の凸凹した路にしか見えなかった。

快晴だったので、死海は青空を映して抜けるように青く、無気味なほど静寂だった。これが海水面より1,296フィートも低い地球上最底の地点である。生物のかけらも存在せず、死のうと思つて飛び込んでも体が沈まず死ねない死海。

死海に添って走っている中に、反対側の山脈が途切れ、ぼつんとひとつの山が出現した。ユダヤの歴史に名高いマサダ山である。ローマ帝国によりエルサレムが70年に陥落した時、960人のユダヤ人がこの山の頂上に籠り、夜な夜な下山してローマ軍を攻撃悩ませた歴史の山である。孤立しているので流石のローマの軍隊も攻めようがなく、この山のまわりに陣をはって3年がかりで別の山を作り、やっと攻め落したものの、その時は頂上のユダ

ヤ人全員は自害して果てていた。その武勇をたたえて、今日でも、イスラエル軍の特別表彰式はこのマサダ山の頂上で行われるという。

マサダ山の麓についた時、3時半の最後のケーブルカーが下りてくるところだった。今日はこれで終りというのを拝み倒してケーブルカーを出して貰った。但し「帰りは自分の足で下山するなら」という条件つきである。

こうして1920年前の山上の城砦にたどりつき、20世紀もの風雨に耐えて今なおその原形を残す世界最古といわれるユダヤ教会、集会所、風呂場、調理場、信じられない程巨大な貯氷室、頂上から下界に向けて3階建ての宮殿をくまなく見る機会に恵まれた。宮殿への道は、山の片腹のそっけない手すりのついた木の段々を何百段と下りねばならない。足を滑べせたら断崖絶壁を真逆さまである。遠く彼方には20世紀前に作られたローマ軍のキャンプの後がありありと見える。マリアと付き添いのドライバーは石の建物のどこかを見ているらしく、その姿はない。見渡す限り私だけがただひとり、この途方もない歴史の現場に立ちつくしていた。

夕暮が迫ってくると人影ひとつないこの山上の廃墟には鬼気が漂い、此方は全身が鳥はだとなる。足許の明るい中にと、ほうほうの体で下山にかかり、この時になってこれは全く「行きはよいよい帰りは怖い」であったと気が付いたが後の祭りである。絶壁にきざまれた坂道は土とじやりと岩で、手すりさえついてない箇所もあり、足を滑らしたら下界に真逆さまで体はこわばり、汗たらたら下山であった。

翌日エジプトへ発つ前にG社に別れを告げに行ったら、すぐに私がマサダ山を自分の足で下山したことが知れわたっており、「ミス・ランコは、山羊の如くあのマサダ山を駆け下りた」ということになっていた。

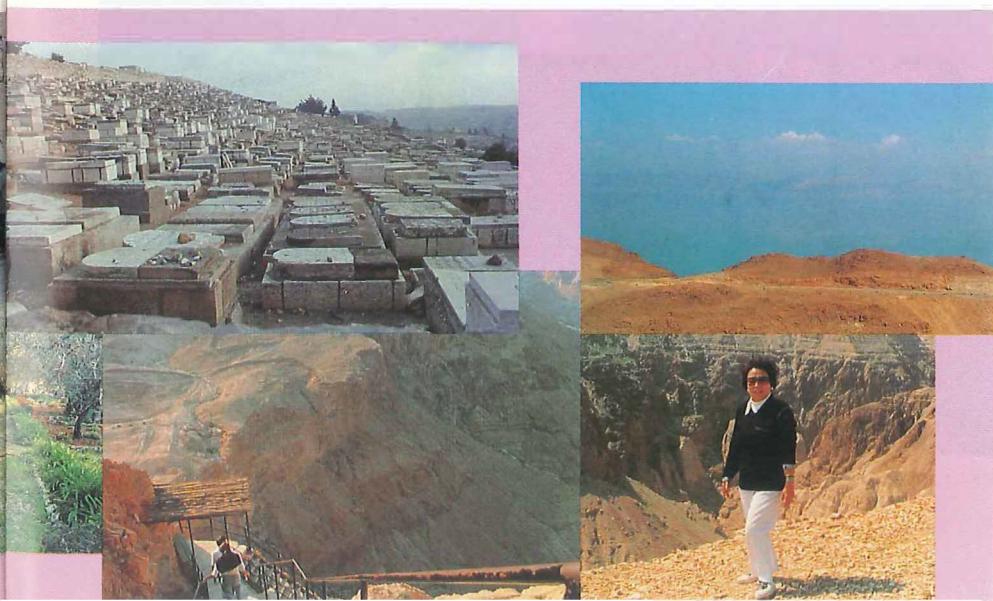
イスラエルは、是非もう一度行ってみたい国である。



筆者紹介

岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒
ランコインターナショナル社長
ニューヨーク在住



DENTAL SPACE

エレガント・カラーといわれる
ピンクとグレーを中心に、
和らかな雰囲気をと心掛けました。

内田歯科医院

東京都文京区小石川2-25-12 内田ビル2階

院長 内田公美(旧姓・佐藤)



設計・施工：(株)ウエダ

開業：平成元年8月

スペース：74.5㎡(約22坪)

ユニット：スマイリーN 2台

診療時間：10:00~13:00、14:30~18:30

(休日)日曜、祝日、水曜

スタッフ構成：歯科医師1名、衛生士1名、

助手2名

患者数：18~19名

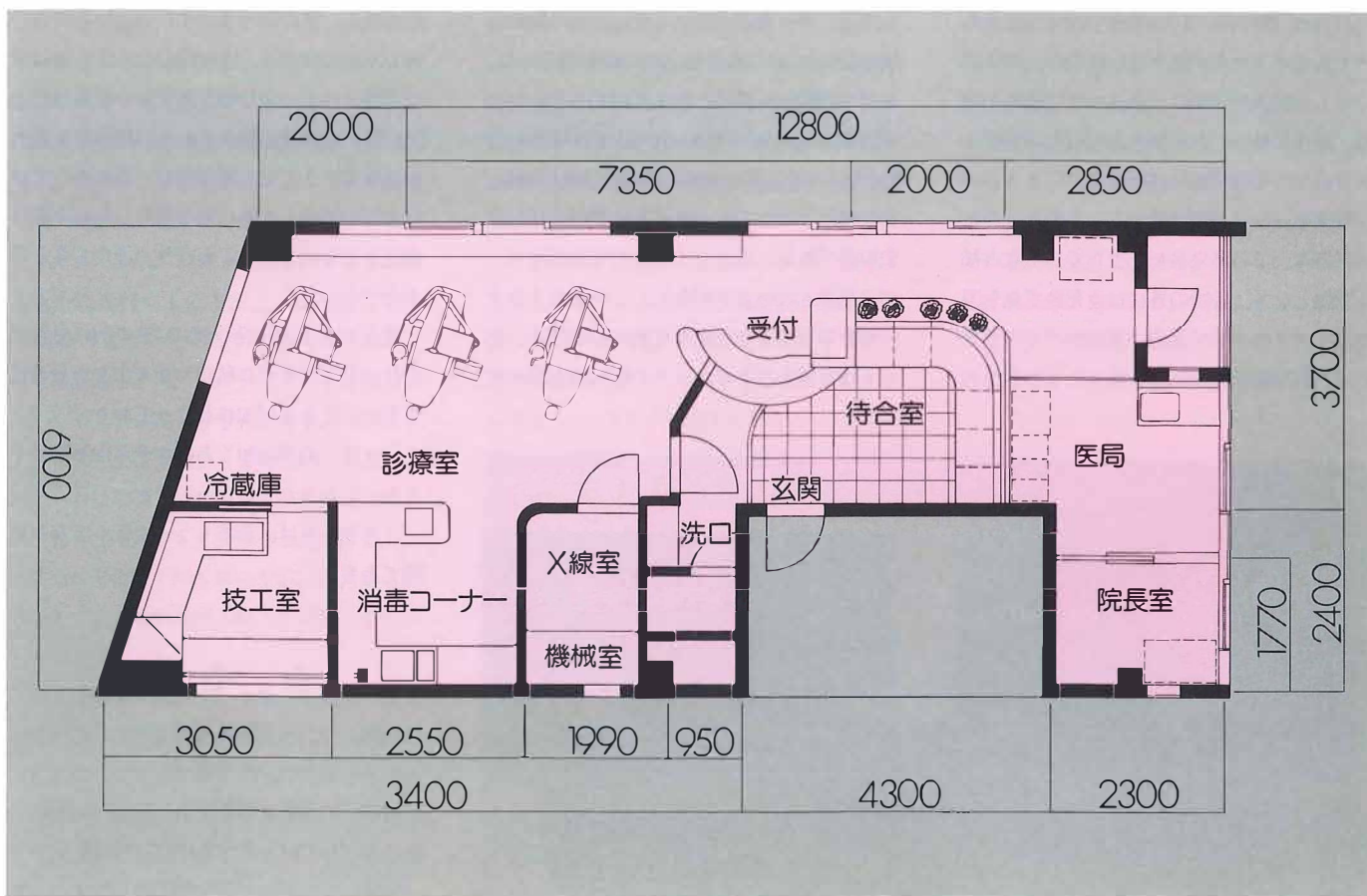
都営三田線・春日駅。NHK大河ドラマ「春日局」ゆかりの地として、商店街には幟がはためき、下町の雰囲気を一層賑やかなものになっている。

ご紹介の「内田歯科医院」は、その駅より徒歩で4~5分。後樂園ドームに続く、商店街の角地近くに建つ4階建のテナントビルの2階にある。ビル名が内田とあることから、つまりオーナービルと思ったが、「偶然です

よ、皆さんから聞かれて、もう何回言い訳したかしら」と笑われる。

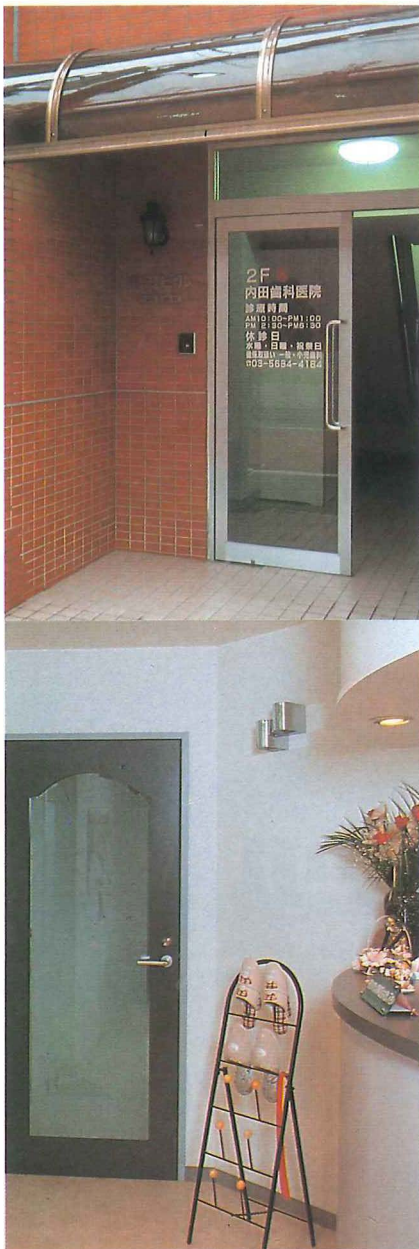
院長は昭和59年に鶴見大学歯学部を卒業されて、西新橋の診療所に勤務。足掛け6年間経験後、昨年8月この地にご開業。ちなみに故郷、茨城県・古河市のご実家をご両親、跡を継がれたお姉様夫妻も歯科医師という、歯科一筋の家系である。

待合室は、ます目のベージュ色の床、表通



りに面した医局員室とアール状に仕切られた白い壁に沿って7~8人掛けの淡いピンクのソファ式待合用椅子が。受付はグレー。これまた、曲線で和らかなアプローチを、との気配りがされている。

診療室は、側面の窓に沿って、アイボリーのスマイリーNが2台。床は大理石模様のビニタイル。ピンクの細型ブラインドの前には、各種の花が飾られ、女性ばかりの室内をさらに華やいだ感じにしている。その他X線室の壁面、キャビネット、手洗コーナーにも曲線を多く取入れ、決して大きくはないが、女医さんらしいイメージで室内全体を演出、設計されている。



スタッフの皆さんも、写真でおわりのように美人揃いで明るい雰囲気。これなら歯の痛い患者さんも、いや、痛くない患者さんでも、たまには定期検診を受けに行こうかな、と思うことであろう。

最初から不躰な質問、と感じつつも、

Q：ご結婚は？ご主人は？

院長：はい、一年前にしました。主人は業界では大手の和田精密歯研(株)の技工士兼営業管理職をやっております。仕事柄、歯科業界には精通しておりますので、開業にあたって、場所設定や各種設備のチェック、経営のノウハウ等、私ではとても思いつかないところをアドバイスしてくれまして、ずい分分かりました。

Q：そうでしょうね。歯科関係者であり、かつ客観的にこの業界を見られる方の意見は大切でしょうね。

院長：とても大切ですね。例えば同じキャリア、同じ様な場所でも、開業後どんどん

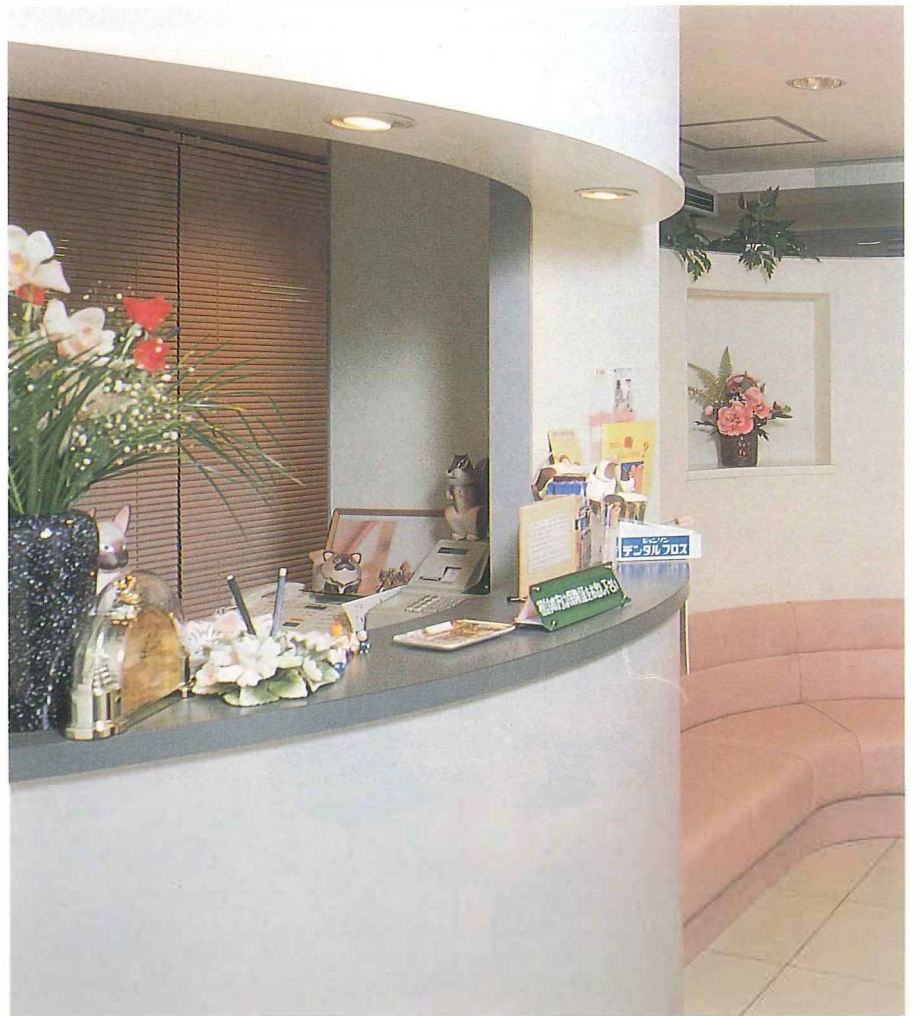
差がついていく。その原因は何か、を色々な医院を回っているからよく解るんですね。

Q：その原因の主なところは何でしょう。

院長：対応等を含めた雰囲気も大切ですが、やはり一番主な原因は、歯科医の実力と力量ですね。当り前のことかも知れませんが、十分な経験の上に立った、患者さんの為を考えた治療…。患者さんも最近では良く知っておりますから…。

Q：そうしたことへのご自身の勉強は？

院長：勤務医当時、良き先輩方に恵まれて、共に勉強・指導してくれましたし、その方達が、大谷歯内治療研究会なども紹介してくれまして、最初の2年間は夢中で勉強しました。その先輩達と大谷満先生が私の歯科医師としての芽を開かせてくれました。もし、この方達がいなかったら、現在の私一歯科医師としての生き方、考え方という意味ですけれど一はな



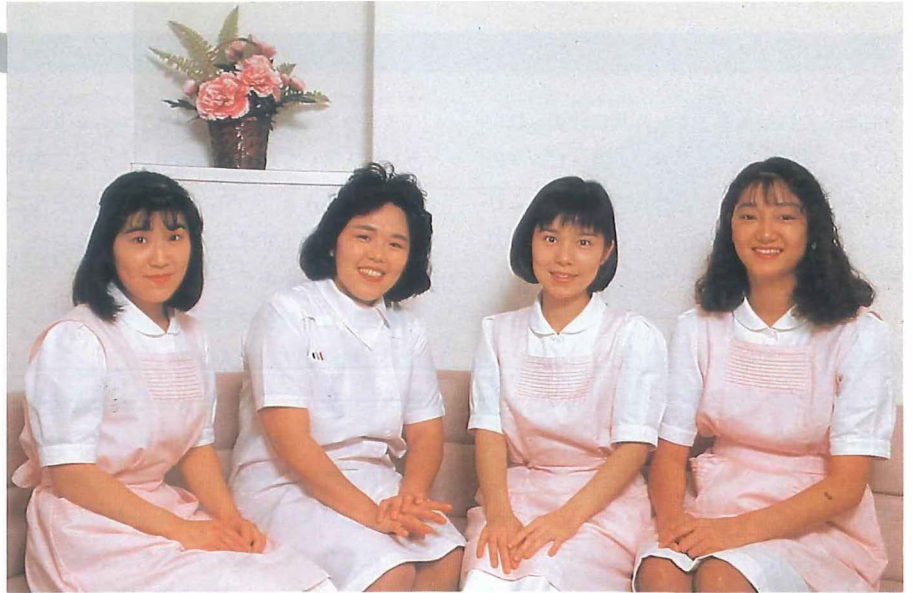
かった、と思っております。もちろん今も、各種の講演会、スタディーグループには身体の許す限り必ず出席しておりますが。

Q：ご両親、お姉様共歯科医師、院長も全く抵抗なくこの道へ？

院長：いいえ、子供の頃は歯科医はもちろん、その奥さんにもなりたくなかったですね(笑)。やはり歯科医の苦勞を目の前で見ていたことへの抵抗でしょうね。特に母の大変さと、自身への淋しさなど色々混じっての複雑な気があったんでしょうけれど…(笑)。

Q：しかし歯科医になってしまって…(笑)。今後の出産・育児については？

院長：あまり考えないことにしているの(笑)。でも、母もさっと私をおぶって治療していたと思うし…。父も、今は姉夫婦がほとんど医院を切り盛りしております、支部長などの会の役員の仕事などを主に

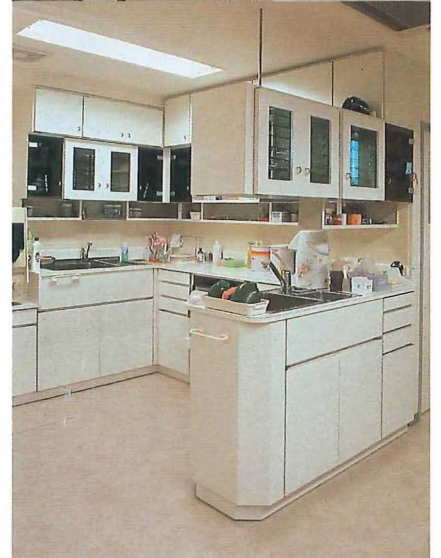
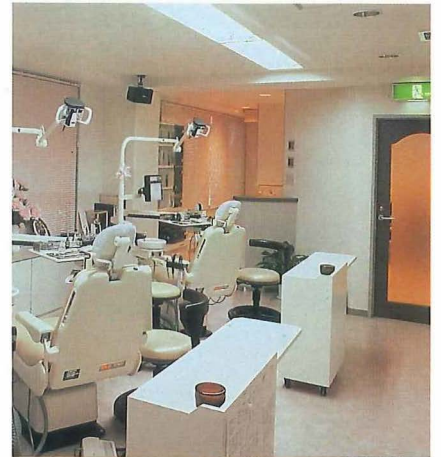
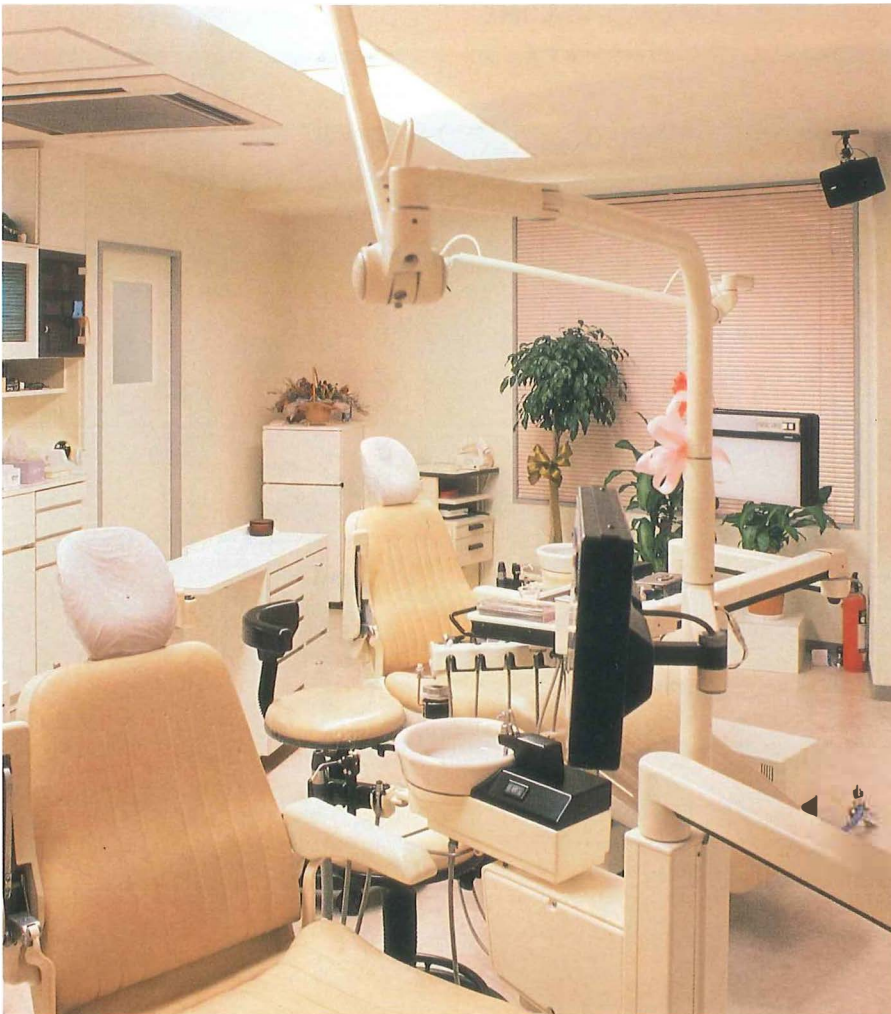


やっておりますので…。その時は、俺が行ってやるからナ、と云ってくれていましたので、その時は…期待しています(笑)。

Q：診療室を作られるにあたってどんなところに気を使われましたか？

院長：やはり一般的ですが、明るく清潔な印象と、怖い、痛い、と思われている歯科

医のイメージを消したいと思いました。エレガント・カラーといわれるピンクとグレーを基本色として使いましたが、「女性」のイメージをあまり前面に出しますと、男の方は落ち着かないかな、とも考えましたし。その辺が難しかったですね。個々については、曲線をなるべく多く使



って、和らかな印象を出すこと、医局員室を後面にもっていかなくて、通りに面した明るい所にもっていったこと。そうそう、洗口コーナーの鏡は気に入ってニューヨークからわざわざ買って来たものなんですよ(笑)。

Q：患者層は？

院長：この辺りは、商店街、マンション、オフィス等いろいろな方が混じって生活しておりますので、一概には云えません。でも、いろんな層の方達を治療することは将来きっと役立つ、と思って…。良い場所に開業できたと喜んでおります。

Q：オサダのユニットを選んで頂けた理由は？

院長：勤務医時代も、大学でも使った経験から慣れていましたが、でも自分で開業するので、各社の製品をよく調べましたし、友人、先輩など、ずいぶん多くの方に意見を聞きました。中には自身は他社製品を使っているのに、「オサダのユニットならいいんじゃないの」と云ってくれる人もいて、安心して買うことができ

ました。ただ、残念だったのは色が丁度気に入ったものがなく…。近頃は良いのが出ているんですね。これが残念で…(笑)。

Q：後に続けられる女性に。

院長：女性はどうしても、腰掛的に仕事をやる、との印象があり、就職する場合人気がないんですよ。こうしたイメージを消すためには、男性並の努力、勉強を1人1人が心掛けてやらなければ。とにかく卒後2年間位の勉強が非常に大切だと思いますし、この時をいかに過ごすかで将来が決ってしまうのではないかと思います。後に続く女性の方も、この辺を心して頑張ってくださいと思っています。私もまだ開業したばかりで、左も右もわかりませんが、いろいろな事をもっと勉強し、自分自身の向上と、歯科医師としての幅をもっと広げたいと思います。このような事は、男女差はなく、医療に携る人間として、最底の果たすべき責任だと思っています。



歯科医院の新築・改築・増築から、 医院経営まで、 すべてわかる。



歯科医院

定価10,300円
(本体10,000円)

開業ガイド

- 〈主な項目〉
- 歯科医院のセクション別実例
 - 歯科医院のレイアウトチェックリストと基本事項
 - 歯科医院のレイアウト実例
 - これから開業される先生方へ
オサダからのアドバイス
- 〈別冊付録〉
- 設備機械、器具、材料リスト



歯科医院

定価6,180円
(本体6,000円)

経営マニュアル

- 〈主な項目〉
- 開業準備の留意点
 - 開業準備計画書／開業収支・資金計画書
 - 歯科医の節税戦略(書色申告)
 - 特別経費・専従者給与・みなし法人・損益通算・特別償却・MS法人・医療法人
 - 財テク・税テク 他

※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業(株)/顧客センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(492)7651(代)

トピックス

車イスに乗ったまま、歯の治療を！
大好評の〈開業医〉を訪ねて



院長
賀来 進

賀来歯科医院

大分県大分市光吉
HIH 2 番館 1 階

高齢化社会を迎え、各地にその医療対策活動が活発になって来ている。が、その多くは公的病院や保健センター、また団体グループ等が月日を決めて交替で治療にあたる、というのが現状。

こうした中で、個人の歯科医院が、せめて車イスに乗って生活できる患者だけでもそのまま治療しようと、専用ユニットを揃え開業、注目を集めているのが、ご紹介の賀来歯科医院である。

場所は大分市街から南に向かって車でおよそ20分。大分川に沿って郊外住人のために作られたショッピングセンターの一角。入口はスロープ状で、ドアも自動開閉。「こんにちわ、いらっしやい」の明るい声で迎えてくれた受付の女性も車イスを使用されている。'88ソウルパラリンピック車イスマラソンで銅メダリストになった前田さんだ。前面受付カウ

ンターは、美しい曲線をえがいて、通常の高さから、膝の高さまで流れるように作られている。広い待合室から診療室へ、更に院長室、技工室も、院内は全く段差がなく、車イスに乗ったまま、どこへでも自由に動けるよう万全の設計。もちろんトイレも身障者が使用できるよう広いスペースが確保されている。その診療室内の一角、アコーディオンカーテンに仕切られた部分に、オサダカ昭和53年に車イス専用ユニットとして、肢体不自由者のために開発した〈ユニオートR2〉が設置されている。製造発表した頃は、健常者も歯の治療に何日も待たされた時代故、納入も僅かだ。公的病院にボツボツ程度であったが、高齢化社会を迎え、全国各地に各種施設が誕生すると共に、急速に脚光を浴び始めた。が、しかし

公的病院で設置するのは当然のことになりつつある今も、個人病院では、まだまだ躊躇するのが現状。これに正面から挑み、感謝、成功されているのが賀来先生だ。

その動機は「やはり歯科医で診療を共にしていた父が、ある日脳硬塞で倒れ、他界するまでの1年間を車イス生活者となったのです。厳格でカリエスの1本もなかった口腔内がみるみる惨たんたる状態になり、車イスのまま治療が受けられたらどんなに良いだろう、と思ったのが、私を決心させました」「町中にあった診療室を郊外に移し、広い駐車場を確保すると共に、車イス生活者の諸設備を考えられる限り総てとり入れ、この医院を作り上げました」。長年のばしていた口ヒゲも精神薄弱の少女より“こわい”といわれてサッ





パリと剃り落としました、と笑う。「設立当初は週2日を身障者診療日にあてておりましたが、近頃は慣れて来ましたので毎日、一般の患者さん同様、来院されれば治療しております。時間も手間も全く健常者と変わらないですよ」今日の患者さんは近くの養護老人ホームから。自身で車イスに乗ってユニット近くまで来ると、アシスタントさんが車を押して下台中央に、後部にあるセフティバーをロックし、頭部を調整・固定。フットコントローラーで前面部を車ごと上げるとそのまま治療態勢に。その間、10秒～20秒。先生のおっしゃるように、全く他の治療者と変わらない。「ただ残念なのは、治療対象者は、重度の心身障害者ではなく、車イスでも何でも使って通院可能な患者さん達ですね。実際には、聾

啞者、視力障害、精神薄弱者、精神病患者等と何らかの事情で肢体不自由となった車イス使用者の方々です。私なりに障害者を3つに区分しているのですが…。第1は先述のような車イス使用者ですね。この方達は、最小限、段差のないスロープのある設備と車イス用トイレの設置でほとんど解決できます。しかし、専用トイレが設置不可能の場合はアポイントの時間さえ正確に守れば、彼らは下半身麻痺のため、絶えず気を使いますから、事前に処置して来院されますから、専用でなくても、洋式トイレを設置すればあまり問題にはなりません。第2は在宅訪問診療ですが、この方達は自力ではほとんど動きがとれない方が多

いし、医科・歯科の連携が必要のため、今後は、絶対さけて通れないことですが、グループなどでの活動が必要です。第3は重度の心身障害者です。この方達は残念ながら私達では手をつけることはできません。公的病院にお願いするしか、現状では解決の道がありません。私のところでは第1の方を治療し4年近くなりますが、彼らはこうした情報の横の連絡は密で、よく把握しているようですね。一般診療ユニットは5台。待合室には患者さんが溢れている。が、皆さん、車イス使用者が来院されても、暖かい目で見守っている。こうした心が、院長の診療をよりやりやすくされているのではあるまいか。「大切なのは、来院されたら、許す限りすぐ治療をしてあげること。また、治療中どんな事態になるかわかりませんので、近くの内科医や私の場合は大分医科大学の口腔外科ですが、連携できる病院を持つことが必要ですね」こうした態勢ができあがったら、恐れず第一歩を踏み出して欲しい、とおっしゃる院長。「こうした医院が全国に広がって行けば、学習会も開けます。一度学習会を開けば、今後のネットワーク化も図れます。課題は山積していますが、ぜひ実現したいと思いますし、でき得限りの相談にも乗ります」との頼もしいご返事。

オサダも歯科医療機器のトップメーカーとして、当然の義務を果たすべく、今後も更に良い商品作りに研究・努力し、先生方とハンディキャップを背負った患者さんのお役に立ちたいと願っております。



年 頭 所 感

歯科医療界の発展を願って ——衛生士の立場から——

東京都歯科衛生士会々長 江口愛子



今号は、90年代の年頭に当り、歯科衛生士の役割、向上に長年ご貢献、ご努力されて来た江口愛子・東京都歯科衛生士会々長に、今年の抱負、展望等をご自身の歩まれて来た道を絡めながら語って頂いた。

尚、次頁紹介のお2人の衛生士さんは、日本興業銀行本店歯科室に常勤されている江口会長のもとで働かれている方達。その指導下、歯科衛生士としてどのように考え、お仕事を遂行されておられるか？ご登場頂きました。

「ご存知のように、昨年6月28日歯科衛生士としての資格が厚生大臣免許となり、同時に歯科保健指導者として、その地位が立法化されました。このことは私達歯科衛生士が歯科医師のパートナーとして、国民の口腔に関する生活全般を指導出来る事が社会的に確立されたのです。現在、東京都には有資格者が約33,000人程おりますが、その内約10~15%の方々しかその資格を充分活かしきってはおられません。しかし、こうした免許は国できちっとその職種を認めて下されば、地域住民、又老人ホームなど各種の施設で、その職域を活用出来ると思うのです。日進月歩に発達して行く歯科医療全体の状況を考えますと、私達の仕事も又、生涯教育を基本におく必要があると思います。その為にも歯科衛生士会に入会され、生涯教育のチャンスを積極的につかんでほしいものです。女性はとかく、種々の事情によって、移動や職業の停止を余儀なくされますが、以前はともかく、今後の社会生活を考えます時、組織だった教育を身近かで受けながら、たとえ一時期その職場を離れることがあっても、常に復帰出来るよう

に勉強をぜひ心掛けていって欲しいと思います。重ねて申し上げますが、会にはいって頂き、共に同士として、個人としてのエネルギーは小さいけれど、一致団結して向上して行くではありませんか。」

——歯科医師にたいしてのご要望はありますか？ 「近年は私達の立場や受けた教育内容を理解し、十分に活かして下さる先生方も多いのですが、以前は衛生士の仕事も技工士の仕事も総て自分でやり、人にはまかせられない、という歯科医が多かったですね。しかし、こん日のように、国民の要望も複雑になり歯科界全体に歯の治療はもとより、自分自身の健康管理まで期待する時代に入りますと、そうした気持では国民の期待に応えることは出来ません。診療・治療は歯科医師をコンダクターとして、補綴等は技工士、予防歯科は衛生士等分業し、お互いに助け合いながら歯科ファミリー全体の向上に向かって協力し、又、そうしたエネルギーを一丸となって国民に訴えていかなければならない時代に入りました。歯科医師の方々への要望ということではなく、私達もその責任の一端を受け持つことを充分自覚して歯科医療界全体の向上、と願っております。」

江口会長は昭和29年に日本女子衛生短期大学をご卒業され、すぐ米陸軍病院歯科診療所に勤務。5年間の歳月を、当時はまだ確立されていなかった歯科衛生士としての職業分野を先進国の診療所で学んだのであろう。以来56才になられるこん日まで、歯科衛生士の向

上を願って、都衛生士会副会長・会長を通算17年余り、61年には歯科衛生功労賞として厚生大臣表彰、昨年10月には東京都知事表彰を受けられている。

——振り返っての人生を…「ただ夢中で歩いて来た人生ですが、何か人のためになることを自分自身がしていると思いますと、それが生きがいとなり、自身を励ましてくれるものです。その結果、良い人に巡り合い、たのしい出会い、会話があり、更に良い方向へと自分を導いてくれるものですし、又苦しい時の救いにもなってくれます。私は幸いこの銀行という理解を示してくれる職場に恵まれたので、行政側との交渉ごとや会の仕事で時間を費やすことが出来ました。が、人間一つのことを一生続けければ、必ず何か成し遂げられるものです。そう言った意味で、私は歯科衛生士という、女性を充分活かせる仕事やって来て良かったと思っております。この銀行もあと少しで定年ですが、その後もこの経験・資格を活かし、ボランティアとしてやって行けたら、将来の生きがいもきっと見つけ出して行ける、そう思っております。」

明るくサッパリとしたご性格のようだ。しかし、診療所内の人や来訪者に対しては細かな女性らしい心遣いを見せる。やはり人間関係の微妙な心の綾を永年大切にされ、生きて来られたことが、言動の一つ一つに感じられお話ししていてもたのしい。全国で働いておられる歯科衛生士の皆さん、いや、歯科医療界全体にとっても頼もしい味方である。



では、江口会長のもと、日本興業銀行歯科
室で働かれているお2人の衛生士さんは…。

<遠藤町子さん>

東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学
校を卒業され、最初2年を都立府中療育セン
ターで仕事に従事された後、当行に勤務。今
年でこの道17年と言う、会長にはかなわな
いが、大ベテランの歯科衛生士さんだ。

「この職業は、日本では戦後に出来たばかり
の職業ですので、まだまだ完全に確立され
ているとは申せません。しかし、だからこそ
本人はもとより、会の活動などでまだまだ今
後発展して行くのではないのでしょうか。会長
は、こちらが真剣に勉強したい、仕事もこう
やってみたい、とお話しますと、どんどん
やりなさいと勧めてくれます。事実私もここ
に勤めながら夜間大学に通い好きな文学部を
4年間で卒業させてもらいました。時々壁に
ぶつかりますが、そうした時は親切に相談に
のってくれまして、助かりますね。良い上司、
勤め先に恵まれたことが、今日まで長くこの
仕事に携わって来られた原因でしょうね。」

ひかえ目だがしっかり
とした印象の衛生
士さんだ。



<増野和代さん>

増野さんも遠藤さん同様、医科歯科附属の
ご卒業。祖父が歯科医だったことからこの道
へ、と話す。既に足掛け10年目のベテランで
ある。「やはり理解ある上司に恵まれたこと
が、長く勤めてこられた原因でしょうね。現
在11名の歯科衛生士が、支店、別館と3カ所
にある歯科室をローテーションを組み回っ
ておりますが、先生の勤務月日と合わせた休み
なら自由に取れますし、上の方も、歯科衛生
士以外の経験や知識を積むことを奨励してく
れます。

仕事上注意していることは、先生が治療中、
言葉で言わなくても、次に何をやりたいのか、
するつもりなのかを事前に察する努力です
ね。そう言った意味で、普段のコミュニケー
ションを良くしておくことが大切なのではな
いでしょうか。」

やはりベテラン。この方ならどんな職業で
も、又、家庭を持っても立派にやって行ける
だろう、と想像出来る
衛生士さん
である。



アシスタントとしての
心構えから話し方、
患者さんへの対応の仕方、
会計、消毒
手渡し技術等々を
わかりやすく解説。
また、簡単な機械のメンテナンスも
図付で説明。
アシスタントのノウハウを
詰め込んだ一冊です。



定価6,180円
(本体6,000円)

※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業(株)/顧客センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎ 03(492)7651(代)

オサダの商品
〈お元気ですか?〉

山本歯科医院
北九州市門司区大字吉志1910



院長 山本 稔

山陽新幹線・小倉駅よりおよそ30分。吉志は周防灘に沿った新門司港に近い風光明媚な静かな町だ。その町のほぼ中心に広い敷地に長く続いた歯科医院らしい落ち着いた構えの山本歯科医院がある。診療室内からは冬の日射しを浴びた美しい日本庭園が望まれ、ゆったりとした視界が広がっている。都会人にはうらやましい程の診療環境である。

院長は九州歯科大学を卒業後、熊本中央病院に1年、更に小倉で2～3年修業後、恩師から医院をまかされ開業されていたが、6年目に当地でご開業中のお父様が倒れ、急遽ご実家にもどられ跡を継ぐ。以来今年で20年、現在は門司区歯科医師会の副会長をされているという、脂の乗りきった51才である。

「父といっしょに治療をした経験はないのですが、やはり小さな頃からの環境かな、この職業が肌に合っていた、と近頃つくづく思いますね。会の関係その他で若い方達とも会いますが、やはり歯科医に向けた人間とそうでない人がありますね。態度、物腰、言葉使い等、決してお世辞を云うということではなく、人間の中身から出る信頼感というか、医師としての雰囲気ですね。難しいですが、これを身につけるか否かによって、医院格差が出て来るようですね」

お子様は? 「残念ですが(笑)、娘3人。跡

継ぎはおりません。今はともかく、私達の卒業生の中に女性が7人おりましたが、現在歯科医をやっている人はたった1人。そんなことが頭にあるものですから、歯科医にはさせませんでした。チョッと古いかナ(笑)」

ご自身の今後は? 「この仕事は体力、気力が必要な職業ですから、目もだんだん悪くなって来ますし、出来たら60才まで…。なんて

思っているんですよ(笑)」と口ではおっしゃっておられるが、ゴルフはハンディ3の腕前。気力・体力とも増々充実、上昇中とお見受けする。

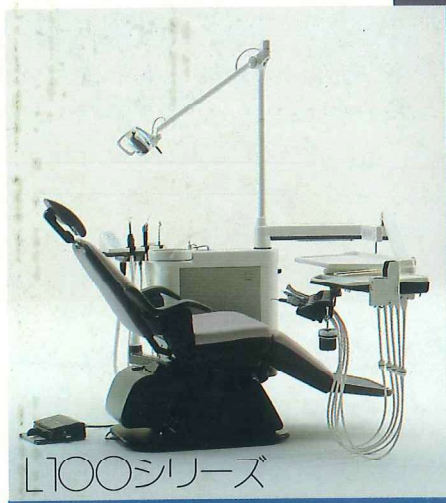
会の若い方達の相談ごとについて「知識は私達の頃よりずっと持っていますし、よく勉強もしていますね。しかし、歯科医過剰とあまりにも言われ過ぎているためか、開業が年々早くなって来て、中には、技術や経験はともかく、場所が見つかったから開業する、と云う人もおられます。若いうちの勉強がいかに大切か。それと先に話したように患者との信頼関係ですね。これは充分な経験が裏うちされた、内からにじみ出る医師としての雰囲気ですからね。難しいですが」

窓に沿ってスマイリーN3台が…「右から使用年数は、4年と10年と14年なんですよ。一口にスマイリーNと云いまして、ユニットの中身は年々進歩、良くなって来ておりますからね、私のもつばら最新のものを(笑)。若い方に左側の方を使ってもらっております(笑)。私は凝り性だから確かな製品と思ったら一筋ですよ(笑)」

知識イコール名医にあらず、とおっしゃる院長。長い歯科医師生活から得たご自身の実感であろう。診療に向かわれる身体の隅々にまで、その自信は溢れていた。



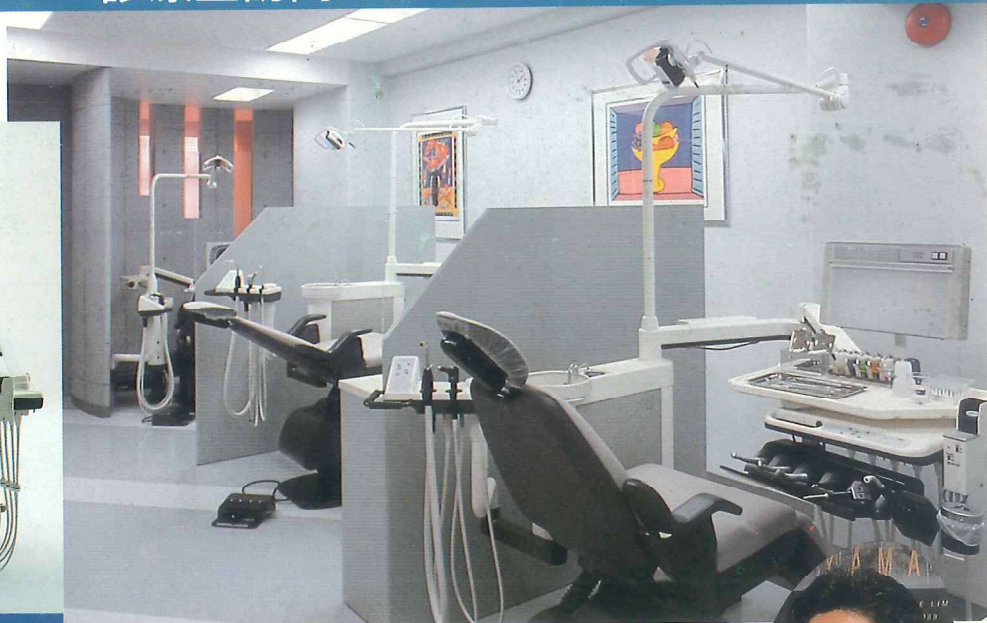
診療室訪問シリーズ



L100シリーズ

SMILEY Fine
スマイリーファイン

製造承認番号01日第0296号



宮川デンタルクリニック

横浜市港北区箕輪町2-3-7 日吉ロイヤルマンション1F

院長 宮川 修

(東京医科歯科大学卒・29才)



東横線・日吉駅より横浜方面に向かって車で3〜4分。網島街道に沿って建つ、14階建の高層マンション。その1階にオープンされたばかりの宮川デンタルクリニック。付近は大手企業の研究所やマンションが建ち並ぶ絶好の開業場所である。

院長は卒業後、第3補綴学教室に残り2年間臨床研究を。その後1年間開業勉強のため勤務医を経験。卒後4年目にして開業へと踏み切られた。

総合的に見て、本当に良いものを選ぶことが大切。

〈スマイリーファイン・L型〉、ものすごく使いやすいですよ。

室内はおよそ72㎡。限られたスペース故、各部はゆったり広々というわけにはいかないが、曲線を多く取り入れたアプローチ、グレーを基調に白・黒のモニターをまとめたインテリアは、都会人好みのスツキリとした配色。室内全体を落ち着いたイメージに上げている。歯医者であることは看板でわかりますから、院内のイメージは、緊張している患者さんの気分をほぐし、リラックスして、お

茶でも飲む感じで来院される様に仕上げました。また開業して1ヶ月余りで、スタッフも揃っておりませんが、お陰様ですべり出しは順調。今後は地元の方々が、気軽に歯の悩みを相談できる歯科医としてやっていけたら、と思っております」

◇ 大学時代各社のユニットを使用しましたが、その中で断突に故障が少ないのがオサダでした。スマイリーファインL型は、高齢化社会に向かって、足が折れて、消毒・清掃が楽という点で気に入りました。購買時の価格より、長く使うものですから、総合的に見て、本当に良いものを選ぶことが大切。ものすごく使いやすいですよ。

